

# 「暮しの手帖」にみる昭和20年代から 平成10年代前半までの生活空間と生活意識の変化

大橋美幸

## 1. 「暮しの手帖」について

「暮しの手帖」は昭和23年に創刊された婦人雑誌であり、年間4～6冊が出版されてきた。平成27年8月現在、第IV世紀77号（累計477号）を数え、100号ごとに第I世紀、第II世紀、第III世紀に分けられている。

既報において、昭和20年代から平成10年代前半までの日用品を取り上げて、生活意識の変化とともにまとめた<sup>1)</sup>。今回は生活空間を取り上げる。これまでに住生活に関連して、高度経済成長期の「暮しの手帖」を用いて家電製品や住宅設備等から当時の状況がまとめられており<sup>2)</sup>、本報では「暮しの手帖」第I世紀1号から第III世紀100号までを通して、生活空間と生活意識の経過を追う。昭和20年代前半から昭和40年代前半（第I世紀1号から100号）、昭和40年代後半から昭和60年代前半（第II世紀1号から100号）、昭和60年代前半から平成10年代前半（第III世紀1号から100号）の3つに分けて変化をまとめる。

## 2. 「暮しの手帖」第I世紀1号から100号：昭和20年代前半から昭和40年代前半【表1、資料1】

当初から自分で建てた家の間取りの紹介がされている。新築や改築の図面、写真、かかった費用つきで、間取り等の工夫が詳細に掲載されている。

内容を見ると1LDK（3号：昭和24年4月）、2DK（10号：昭和25年12

月)等、土間の竈から、板間の食事室や居間兼用の台所になってきている様子がうかがえる。なお、1LDKは居室1部屋に8帖以上の食事室・居間兼用の台所が付いている間取りであり、2DKは居室2部屋に4.5帖から8帖までの食事室兼用の台所が付いている間取りである。4.5帖までの独立の台所はKと表示される。

昭和40年代前半頃までの住宅は一戸建の木造が多い【図1、2】。平成25年に現存している住宅を建築時期別に見ると、昭和45年以前の台所はK(独立の台所)またはDK(食事室兼用の台所)が中心であり、その後にLDK(食事室・居間兼用の台所)が増えてくる【図3】。当時としては先駆的であったLDKが紹介されていたことがわかる。

台所は「流しは何をすところか」と、流しが写真入りで、食材の洗い場、調理場、水の供給場、水の捨て場、調理や食事後の食材や食器の一時的な置き場、食後の食器洗いの場と紹介されている。流しの材料は木製、銅板張り、鉄板張り、人造石研出し、タイル貼り、陶製、アルミニウム張り、ステンレス張りが掲載され、木製は「昔、流しと云えば皆木製の流しだったのですが、もう都会では殆ど見当りません」、鉄板張りは「木製流しに鉄板(ブリキ)を張ったもので、これは今なお非常に多く用いられています」、人造石研出しは「最も庶民的な流し」と紹介されている。現在、一般的なステンレスは「最も欠点の少ない」ものの「値段が非常に嵩む」とされている。合わせて、流しの高さが「これまでの流しは低すぎます」とされ、働きやすく疲れない流しの寸法が説明されている(27号:昭和29年12月)。

また、流し台、調理台、煮炊き台の配置について、直線状に並べるI字型(25号:昭和29年9月)、壁の角に並べるL字型・U字型(26号:昭和29年12月)が紹介されている。食器棚や戸棚について、板戸・ガラス戸・網戸、引き戸・開き戸(29号:昭和30年5月)、引き出しの間仕切りや取手(30号:昭和30年7月)等が紹介されている。

当初は浴室がない銭湯利用を前提とした住宅も紹介されていたが(7号:

昭和25年4月、9号：昭和25年10月等）、徐々に浴室付きがあたり前になっている。昭和40年頃、浴室付きの住宅は6割前後であった【図4】。トイレは和式が中心であったが、洋式トイレが登場し（9号：昭和25年10月、53号：昭和35年2月）、昭和40年前後から主流になっている（73号：昭和39年2月、86号：昭和41年9月等）。

他方で、当初、土間や小屋付き（19号：昭和28年3月）、住み込み家政婦用の女中室（21号：昭和28年9月、52号：昭和34年12月）がある住宅も紹介され、中2階や1階がガレージになった住宅等も登場している（73号：昭和39年2月、86号：昭和41年9月、92号：昭和42年12月等）。

住宅とともに、棚や机等の家具の手作り（11号：昭和26年1月、12号：昭和26年6月、14号：平成26年12月等）、ふすまの貼り替え（6号：昭和24年12月等）、セメントやペンキの塗り方（20号：昭和28年6月、21号：昭和28年9月等）、テラスや花壇等のタイルやレンガの並べ方（16号：昭和27年6月、19号：昭和28年3月等）等、様々な方法が多数掲載されている。当時、自宅で一般的に日曜大工が行われていたことが推測される。

暖房について、石炭ストーブ、レンガに蓄熱するペチカ（10号：昭和25年12月）、台所の竈の煙を床下に通すオンドル（22号：昭和28年12月）等が紹介されている。57号（昭和35年12月）では石油ストーブの商品テストが実施され、着火や火力調節のしやすさ、におい、倒れた際の安全性等を検討し「残念ながら、これならとおすすめできるものは国産6種のなかにはありませんでした」とされている。加えて、英国製のストーブに類似した日本製のストーブが紹介され、「日本人はデザイン泥棒だ、というく悪名>が高い」、「日本の技術を信じ、それに誇りを持っています。それだけに口惜しい」とされている。石油ストーブは2年後に再度商品テストが行われ、性能が向上しているものの型を選ぶ必要があるとされている（67号：昭和37年12月）。石油ストーブの普及率が2割に満たなかった頃のことである【図5】。

57号（昭和35年12月）では、「木造一点ばりだったのが、このごろはだいぶ

いろいろ変わった建て方の家ができてきました」と鉄筋コンクリート造、規定の大きさのボードを組み上げるパネル工法等の紹介がされている。

62号（昭和36年12月）では、当時の浴室が「風呂桶はふつう、木製かタイルばり」、「湯をわかすための燃料ですが、これは石炭、薪、ガスなどがふつうです」と説明されている。トイレは水洗トイレが「ハンドルを押すか、垂れているくさを引くなりすれば、自動的に便器の中に水が流れ出てきます」と説明されている。昭和40年頃、水洗トイレの普及率は1割程度であった【図4】。

台所では63号（昭和37年2月）にガス湯沸器の商品テストが行われている。湯の温度、かかる時間、操作方法のやさしさ、費用、水質等が検討され、「たいへん便利な道具」であるものの配管の腐食によるサビ混入の危険性等があることが指摘されている。74号（昭和39年5月）では、調理台が狭くてガステーブルを置くことができないことが多く、一口コンロの使用がすすめられている。ガスコンロの使用が進み、換気扇の商品テストが2度にわたって行われている（50号：昭和34年7月、92号：昭和42年12月）。2度目のテストで、排気力に違いがあり、汚れやすく、ひもスイッチで操作しにくいことなどが指摘されている。昭和40年頃、ガス湯沸器の普及率は2割程度であった【図6】。

移動手段として、60号（昭和36年7月）に自動車を取り上げられている。「昭和30年3月には9万7000台しかなかった乗用車が、今年2月には47万7000台を超えて」、「春秋の箱根、熱海、伊東、夏の湘南海岸は、あなたとまったく同じ考えの自動車族の長蛇の列なのである」、「自家用車も新車となれば、小型で60万円以上とあって手が出にくいのが、三菱500、スバル360やマツダ・クーペ級のいわゆる国民車ならば、30万円台、2年間の月賦払いならば頭金も15万円とはかからない」、「ガソリン1リットル47円で（中略）、街中だと1リットルで7キロというのが相場」、「車検と申しまして、まあ1年に1回くらいのわりで車体検査をうける、そのための整備費が、どうしたって3万円

は見ておかなければならない」、「ワックスをかけないと塗料がはげてキズがつく、10日に1回はワックスをかけ、雨が降ったり、どろんこ道を走ったら洗わなくてはならない」、「東京の場合、日比谷駐車場では朝9時から夜8時まで、30分ごとに50円」と紹介されている。同時に運転しない人向きに自動車後部座席への乗り方、おり方が写真入りで説明されている。当時、自動車の普及率はまだ3%、多くに普及するのは昭和50年代以降のことになる【図7】。昭和40年頃、読者から車の交通がはげしくなり、横断歩道の利用に不安を感じる様子が投稿されている（81号：昭和40年9月）。

他に69号（昭和38年5月）で保育園が取り上げられている。「子どもを保育園にたのもうというとき、最大の反対者はおばあちゃんであることがおおい」、「現在の家庭で母親がやっている家庭保育と3、40年まえの家庭保育とは、かなりちがったものになっている」、「都会では、家がたてられないままになっている空地というものがなくなってしまった。道路は子どものあそび場でなくなった」、「おばあさんと別居を条件にして結婚したものだから、家庭のなかには誰にも遠慮もないものの、子どもの生理学については何もわからない。放送や本で知る『育児知識』だけがたよりだ」とされ、特に共働きの家庭では保育所が必要であるが「出産休暇の6週間がすんで、赤ん坊をあずけようとなると、なかなかあずかってくれるところがない」、「保育園は1万ほどあって、公立と私立の割合は6対4くらいだが、公立ではどうしてもやっつけられないところを、私立が受けもっている（中略）。5時に子どもをむかえにいける家庭ばかりではない。それよりもおそくなる家庭のために私立が、もっとおそくまであずかる」と当時の状況が説明されている。81号（昭和40年9月）には必要に迫られた親たちが立ち上げた共同保育所、いわゆる無認可私設保育所が紹介されている。国からの年間300万円の補助金がなく、「保育料が6000円か7000円、それにミルク代やなにやかやで、1万円はとんでしまう。働かなければ食べてゆけない人が大部分だが、これ以上保育料が上がると、なんのために働いているのか、わからなくなってしまう、もうギリギリの額

なのである。これが公立だと、保育料は、まず2000円こそですむ」、スタッフは「公立の保育所なら、すくなくとも、給料は3万4、5000円は下らない筈である。それが、ここでは2万4000円しかもらっていない」と記載されている。

読者からは病院併設の託児所を希望したり（69号：昭和38年5月）、遊園地や動物園で貸ベビーカーを求められている（71号：昭和38年9月）。また、家具について、学習机の回転イスで子どもが遊んでしまう話（90号：昭和42年7月）や勉強用スタンドの明るさを検討したこと（84号：昭和41年5月）が読者投稿欄に掲載されている。

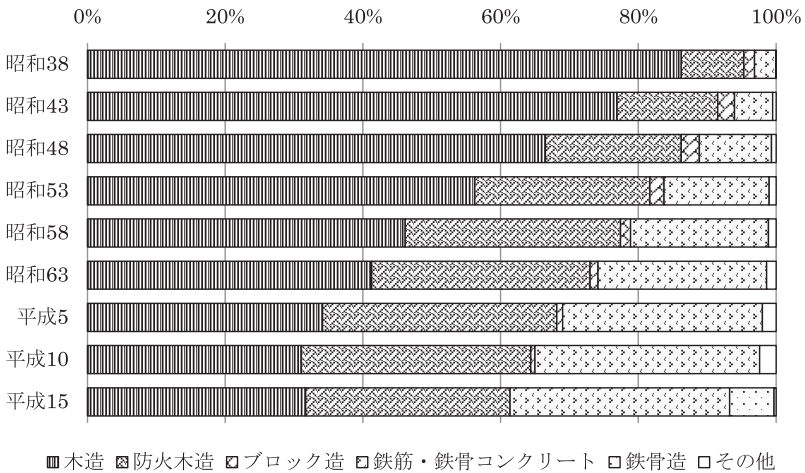


図1 住宅構造 —住宅・土地統計調査より筆者作成

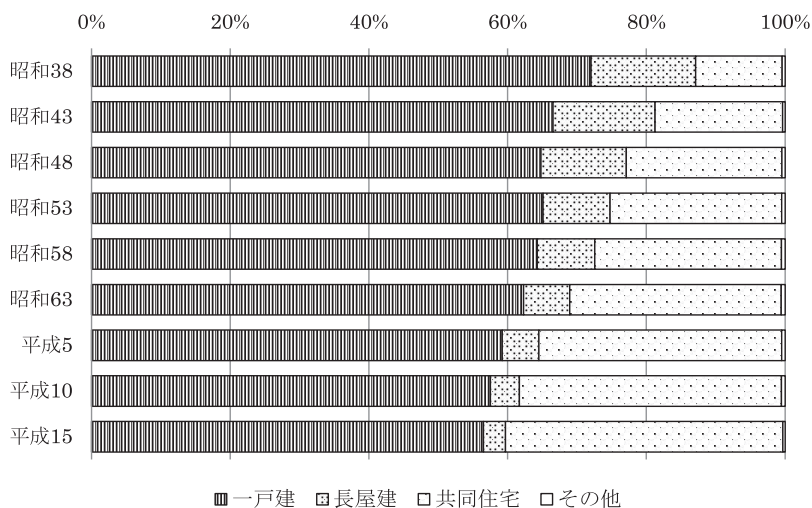


図2 住宅種類 —住宅・土地統計調査より筆者作成

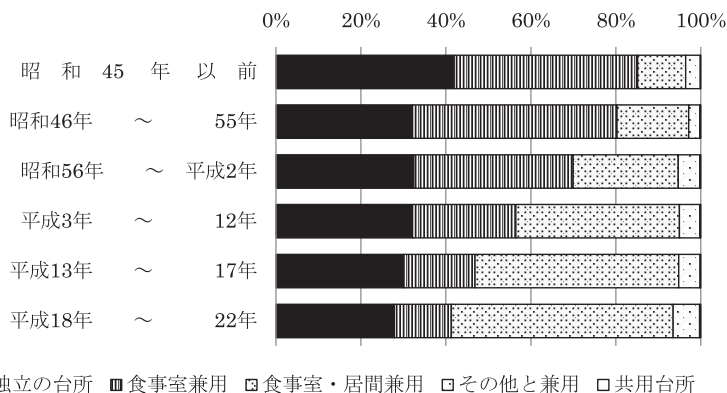


図3 建築の時期別の台所種類 —平成25年住宅・土地統計調査より筆者作成

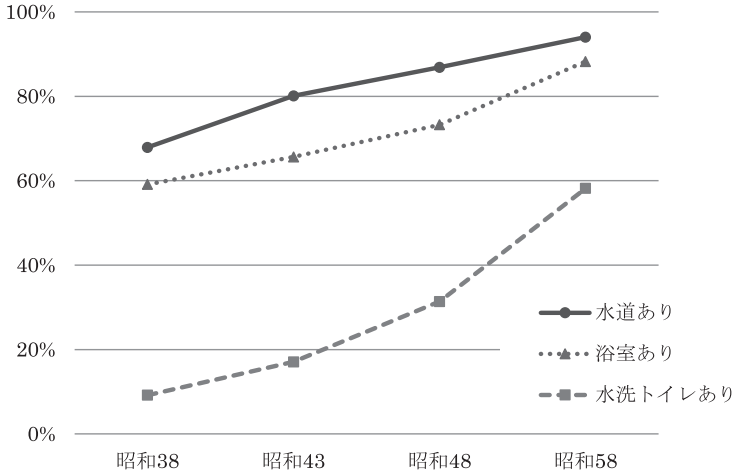


図4 住宅設備 —住宅・土地統計調査より筆者作成

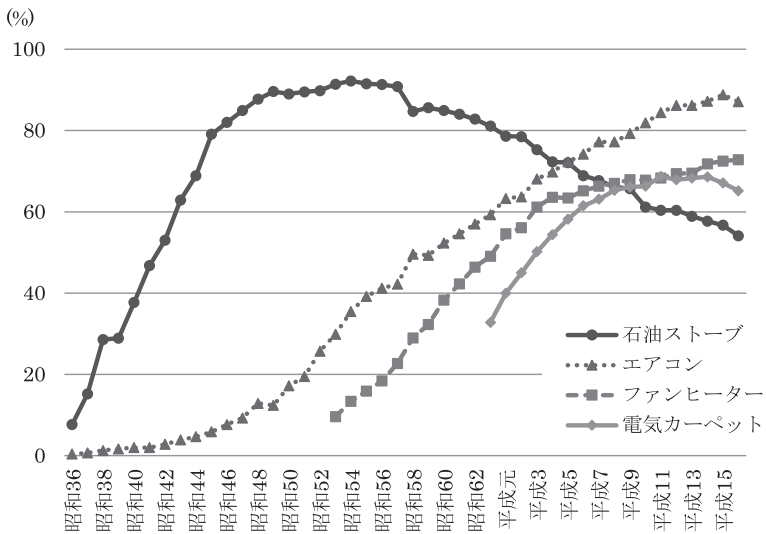


図5 冷暖房機器の普及率 —内閣府消費動向調査より筆者作成



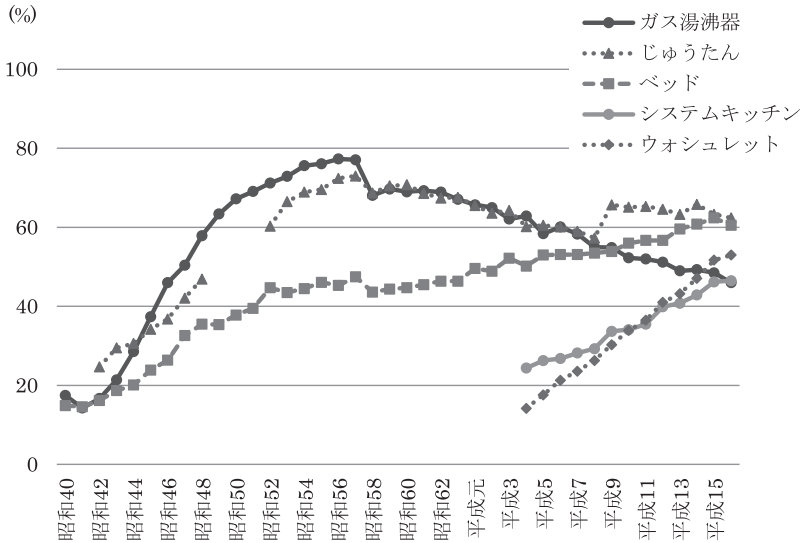


図6 家具等の普及率 —内閣府消費動向調査より筆者作成

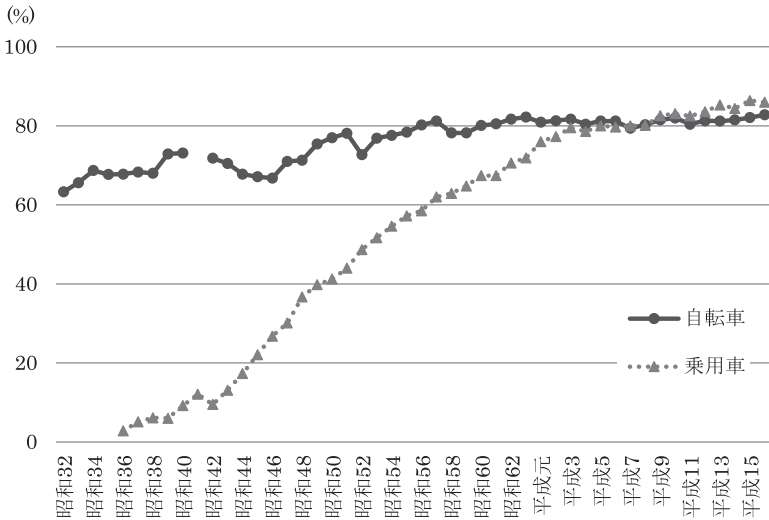


図7 自転車・自動車の普及率 —内閣府消費動向調査より筆者作成

### 3. 「暮しの手帖」第Ⅱ世紀1号から100号：昭和40年代後半から昭和60年代前半【表2、資料2】

2号(昭和44年9月)でアパートが紹介されている。「戦後、鉄筋コンクリートのアパートが出来はじめたのは昭和23年から」であり、アパートは「戸締りは簡単だし、冬はあたたかいし、すまいとしてはなかなかいいと思いますけれど、でも、家という気はいたしません」という感想が掲載されている。これまでの火事は横へ飛び火していたが「高層のビルでは下から上へ飛び火する」という話や、「近頃の洗濯機は脱水できるから、干しものは半乾きの状態で、テラスの部分にガラス戸をたててベランダなり縁側にして、そこに干しても、結構かわく」、「便所の水は流れるときに変な音がするものだが、あの音もパイプづたいに上下左右に伝わる」等の話が紹介されている。読者からは早くから、狭いために荷物であふれたり(第Ⅰ世代79号：昭和40年5月)、洗濯ものを干す場所に困る話が投稿されている(第Ⅰ世代94号：昭和43年4月)。

3号(昭和44年11月)では、アパートが海外と比較されており、日本のアパートが狭く、居間を南向きにすることが優先されるため風通しが考えられておらず、居室のプライバシーが薄いこと等が指摘されている。

10号(昭和46年2月)では、昭和40年代に入ってから「3LDKとか4LDKとか、Lの字の入ったユニットがアパートにだんだん増えてきた」と紹介され、「近頃のアパートを見ると、あらかじめダイニング・リビング」であるが、食堂の机とイスが場所をとってしまうとされている。食堂の机とイスで「ご飯を食べれば、体とテーブルとが離れすぎて」食べこぼしをしてしまう、「床の上にすわって」食べる方が良いとさえ記載されている。

19号(昭和47年8月)では、マンションの広さが取り上げられ、畳の寸法が京間(98cm×191cm)、江戸間(88cm×176cm)よりも狭いマンション間(最小で70cm×139cm)が登場しており、浴室やトイレ、玄関、台所等も狭いことが指摘されている。マンションに住んでいる人の不満の1位は狭いことであ

り、換気、収納場所が少ない、音がひびく、水漏れがある等が続く。

他方で費用は高騰しており、1㎡あたり16万7000円で、3年前の8割高く、1年前の3割近くも高いことが紹介されている。読者からは3LDKで505万円のマンションで「分譲が始まる9時には、既に長蛇の列」と希望者が多かったことが投稿されている（20号：昭和47年10月）。

なお、マンションは鉄筋コンクリート造りのことが多く、これまでのアパートと異なるものの、「長屋といえば、なんとなくじめじめしとみずばらしいが、アパートといえば、中身はたいしてかわらなくても感じは一段明るくなる。ましてマンションとよべば、いかにも高級でデラックスでシャレているように聞こえる」、「大半のマンションがそのじつは、〈西洋長屋〉とでもいったほうが、もっとはっきりしそうな感じ」とあまり変わらないものとして紹介されている（19号：昭和47年8月）。

地価の高騰は29号（昭和49年4月）でも取り上げられており、借家を探してるものの「値上がりばかりの最近では、家賃も5万、7万等と云はれ、権利金なるものも30万、50万と申されるのですが、30才位の独身者では精々12、3万も月給を頂ければよい方で」、「みなさんは金を借りて建てると云はれるが、私共は借りる程の銀行貯金も無し、又、借りたとて、到底返へしてゆける自信は無し」と体験談が紹介されている。

戸建住宅については、19号（昭和47年8月）にプレハブ住宅が「スウェーデンから来たプレファブ住宅」として紹介されている。「部材は、すべてスウェーデンの工場で作られ」ており、「スウェーデンから届くのに約40日、じっさいの工事は基礎工事も含めて、3週間で出来上がった」、スウェーデン人が建築にたずさわったが「人手さえあれば、素人でも十分できそうである」とされている。読者からはプレハブ住宅が木造と比べて安くなく、建築業者が下請けで話の食い違いが起きやすく、工期が遅れた話が投稿されている（20号：昭和47年10月）。

46号（昭和52年2月）では、昭和49年に建築が認められるようになった2

×4工法が紹介されている。工場であらかじめ切りそろえられた2インチ×4インチ角の材木を利用した建築方法である。

台所については、5号（昭和45年4月）で魚焼きグリル付のガステーブルが商品テストされている。火力、焼きむら、操作方法等が検討され、煙が出ずにおもったより便利であるという評価がされている。当時、1台8000円前後であった。消費者物価指数は平成12年を100として31.8であった時のことである【図8】。読者からはグリルでの魚焼きが時間がかかって、おいしくないという慣れない様子が投稿されている（48号：昭和52年6月）。

38号（昭和50年10月）ではレンジフードが登場するものの、煙を吸引する力が不十分で、換気扇の3倍と価格が高く、音が大きく、汚れやすいと指摘されている。当時、1台3万5000円前後であった。消費者物価指数はこの5年間に大きく上昇しており54.5であった【図8】。

トイレは洋式トイレがすでに主流であり、暖房便座が登場している（10号：昭和46年12月）。

浴室はすでに各家庭に普及し、水はり、湯沸かしを感知して知らせるタイマーが紹介されている（39号：昭和50年12月）。銭湯は非日常のものになり、体験談が掲載されている（38号：昭和50年10月）。

玄関は、「アパートには、ドアをあけて入ったところが居間だったり、ダイニングキッチンだったりするのがよくある」、「現在、下駄箱はつくりつけが普通で、下駄などはく人はもういないので、『はきもの入れ』などと妙な言葉ができた」等とされている（13号：昭和46年8月）。

クーラーは第I世紀において窓枠に取り付けるかたちが商品テストの対象になっていたが（95号：昭和43年6月）、第II世紀に入って現在普及しているような壁にクーラーが付けられ、室外器が分離したかたちが紹介される（18号：昭和47年6月）。当時、1台14万円前後であった。消費者物価指数が平成12年を100として35.5であった時のことである【図8】。読者からは新居にクーラーを買ったものの、使ってみて電気代におどろいたという話が投稿され

ている（37号：昭和50年8月）。60号（昭和54年6月）では自動温度調整、おやすみタイマー等が登場する。当時の物価高を反映して1台18万5000円前後であった。消費者物価指数は69.8、昭和47年の2倍近くになっていた【図8】。読者からはクーラーを「夏のボーナスの大半をはたいて買う」話が投稿されている（61号：昭和54年8月）。

暖房は57号（昭和53年12月）で石油ファンヒーターの商品テストが行われている。石油ストーブが安全装置を義務づけられ、燃焼部分が外に出ないため火事になりにくく、タイマー付きで壁から排気管を出して空気を汚さないとして販売された。油量計が見えにくかったり、温度調整がしにくい等の問題を残していた。69号（昭和55年12月）では排気管がなく据え置き式ではない石油ファンヒーターが登場し、当時、1台6万5000円前後であった。当時、石油ストーブの普及率は9割程度であり、石油ファンヒーターは2割弱であった【図5】。

63号（昭和54年12月）で紹介されるレンタンは石油ショックによるものであり、「石油の品不足や値上がりが心配されるなかで、あのなつかしいレンタンがよく売れている」とされ、一酸化炭素中毒への注意が記載されている。読者からもレンタンを再度使おうと思ったものの、レンタン火鉢の値段を見てびっくりしたという声がある（64号：昭和55年2月）。

合わせて72号（昭和56年6月）では福岡県での昭和53年の夏の水不足と給水制限が取り上げられ、節水が呼びかけられている。水の使用量増加について「内風呂がついたり、水洗トイレになったり、もちろんせんたく機の普及も、大きな原因の一つでしょう」とされ、「石油のつぎは水だ」と蛇口をこまめに止める、洗濯の風呂の残り湯の利用等の工夫が紹介されている。読者からも省エネのために、ビニール袋やマイ箸を持参したり、車を持たない話が投稿されている（88号：昭和59年2月）。

67号（昭和55年7月）では43世帯が共同で設計を行い、集合住宅を建設した話が紹介されている。コーポラティブハウスである。各世帯の自己資金は

400～1000万円、住宅金融公庫から750万円を加えて銀行や会社、共済組合、互助会等から150～900万円の借金をして、月々平均6万5000円を返済していた。70号（昭和56年2月）では「団結して土地を手に入れ集合住宅を建てる動きが各地で始まっています」とされ、「土地のねだんがふつうの人には手が出ない」、「町の工務店はしだいに巨大な住宅産業の下請けになってゆき、身近な職人が減ってきている」、「資源問題もからんで木材など材料が高騰している」と当時の住宅事情が述べられており、既製の建築部材を利用して家を建てた例が紹介されている。

83号（昭和58年4月）では、集合住宅を各世帯ごとに改修して、和室を洋間にしたり、収納家具を置いたり、床材を貼り替えたり、アコーディオンカーテンを付けて仕切ったりした5戸の例が写真付きで掲載されている。

91号（昭和59年8月）では、「マンションが大量に供給され始めたのは、昭和40年代のはじめ」で「大規模な修繕や補修を必要とするマンションは、どんどん増えてくる」とされ、マンションの修繕積立金や管理会社について説明されている。実際に、読者から、マンションの補修について住民の同意を取るのが難しいという意見が投稿されている（68号：昭和55年9月）。

ガス湯沸器は「台所に一台、洗面所に一台」というように利用されてきたが、屋外に一台設置し「台所や風呂場などに配管して使う」かたちになり、温度調節ができ、浴槽に45度のお湯を20分程度ではれ、台所との同時利用ではなければシャワー利用も可能になった。当時、1台13～16万円であった（100号：昭和61年2月）。当時、ガス湯沸器の普及率は7割程度であった【図6】。

他に、47号（昭和52年4月）で母親たちが立ち上げた共同保育所が紹介されている。国からの助成金はないものの「自治体からはすこしあって都からは、子ども一人につき、月1万3000円、三鷹市からは、1万2000円」あり、これに保育料3万8000円でまかなわれている。17畳の場所に子どもが17人、保母が6人に栄養士が1人、スタッフは初任給8万円前後と紹介されている。「認可施設が年々ふえてきて、今では、子どもが無認可にいる期間が以前に

くらべて、短くなってきました。ほとんどの子どもが1年、短い子は半年」とされ、保育所が徐々に整備されてきている状況がうかがえる。昭和50年代、保育所の利用児童数は200万人弱であり、私立保育所が1/3程度を占めていた【図9】。読者からは、公立の0才児保育が年度前半に空くため、私立を利用している児童が途中から公立に移っていく話が投稿されている（48号：昭和52年6月）。

83号（昭和58年4月）では延長保育、学童保育等が紹介されている。「国も、こうした現実によろやく目を向け、『夜間保育』設置の方向に重い腰をあげて、去年の春、全国に30か所のヤカン保育園をつくるべくスタートした」とされ、国の基準の7時を超えて、10時まで子どもを預かる保育園の取り組みが掲載されている。

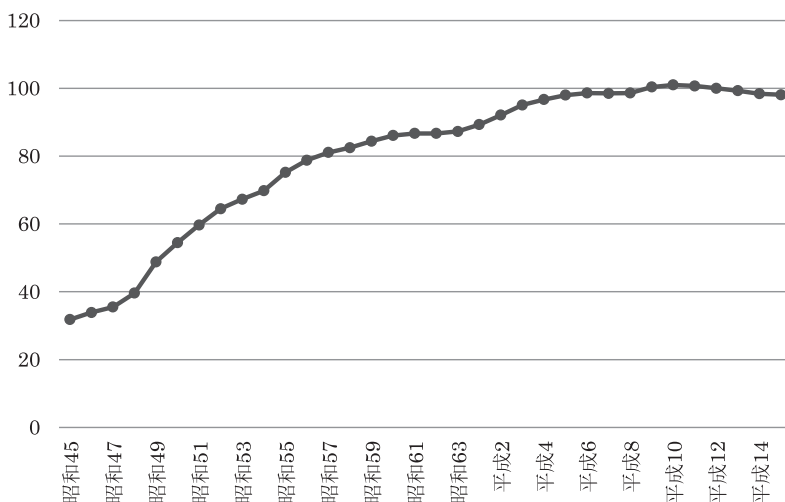


図8 消費者物価指数<sup>1)</sup>

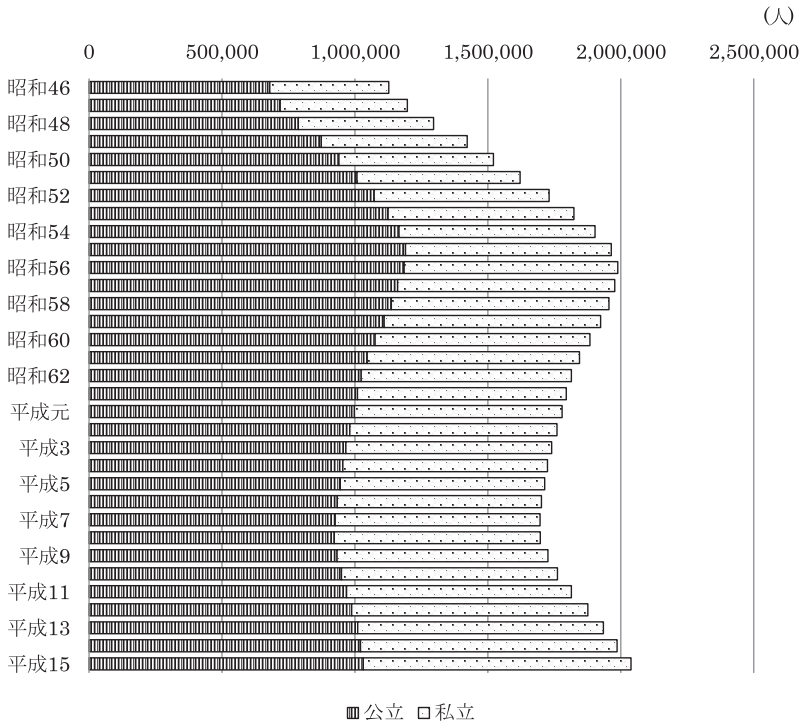


図9 保育所在籍児童数 —厚生労働省「福祉行政報告例」より筆者作成



#### 4. 「暮しの手帖」第Ⅲ世紀1号から100号：昭和60年代前半から平成10年代前半【表3、資料3】

第Ⅱ世紀97号（昭和60年8月）にデイサービスが紹介され、「家に寝たきり老人やボケ老人をかかえているために、仕事ができなくなったり、疲れ果て、悩んでいる人のために、昼間だけ老人を預かろうという試み」として特別養護老人ホーム併設の通所事業の一日が掲載されている。利用料金は平日8：00から17：30までの利用で一か月2万円、送迎は家族が行う。「65歳以上の寝たきり老人は48万人、ボケ老人を加えると約100万人になる」とされている。当時、養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、軽費老人ホームを合わせて約20万人分であった【図10】。読者からは、土地家屋を売って有料老人ホームに移る話が投稿されている（4号：昭和61年9月）。

合わせて、第Ⅲ世紀1号（昭和61年3月）にアメリカの日系人が中心となった健康な高齢者向け集合住宅が紹介されている。日本の民間の有料老人ホームでは「何百万、何千万ものお金が必要ことが多い」とされ、日本での普及が求められている。続けて3号（昭和61年7月）では、住宅の工夫として浴室や階段・上がり框の手すり、敷居の段差解消、割れにくいガラス、足元灯等が紹介されている。

1号（昭和61年3月）で石油ファンヒーターによる一酸化炭素中毒事故が紹介され、2号（昭和61年5月）に石油ファンヒーターに変わるものとしてエアコンが掲載されている。リモコン操作でドライ機能もあり、室外機付きで当時1台30万円程度、クーラーが20万円程度、石油ファンヒーターが15万円程度。当時のエアコンの普及率は半数を超えており、石油ファンヒーターが4割程度であった【図5】。

集合住宅では9号（昭和62年8月）で、間取りや内装を設計・施工できるフリープランを日本ではじめて賃貸に取り入れた住宅が紹介されている。建物は賃貸、内装や設備は分譲であり、転居時に譲渡は公募に限られる。内装や設備に要した費用は300～700万円であり、家賃は月額7～9万円。30戸の

競争率は16.6倍であった。コーポラティブハウスは第Ⅱ世紀67号（昭和55年7月）に続いて、第Ⅲ世紀14号（昭和63年6月）に取り上げられている。10世帯が共同で土地を購入し、各戸の希望をもちこんで設計を行った。1階のみ6戸、2階式4戸であり、間取りは様々である。土地代を含めて2800万円から3600万円、各世帯で住宅金融公庫から2000万円を利用し、残りを共済等からの借金でまかなった。他方で、昭和40年・50年代に建設された集合住宅は建替や改修が必要となり、共同で計画を立てて費用をまかなう方法等が紹介されている（25号：平成2年4月、36号：平成4年2月等）。

平成に入って、アメリカやカナダ等の住宅メーカーが資材を輸入し、設計・建設を行う輸入住宅による分譲住宅地が取り上げられている。価格は土地付で5000万から7000万円、競争率は90倍近くであった（24号：平成2年2月）。

13号（昭和63年4月）において水の汚れが取り上げられている。当時、下水道が50%以上の家庭に普及しているのは東京と大阪府だけであり、トイレを水洗にするための単独浄化槽はあるものの、台所排水等には対応していなかった【図11】。読者からも合併浄化槽の必要性を伝える声が投稿されている（14号：昭和63年6月）。

平成に入っても下水道の普及は半数を少し超えたのみである。読者から下水道の普及にともなって、浄化槽を埋めた話が紹介されている（20号：平成元年6月）。なお、平成27年3月現在の下水道の普及率は77.6%である。

トイレは、第Ⅱ世紀の暖房便座（第Ⅱ世紀10号）とウォシュレット（第Ⅱ世紀83号）が組み合わせられたものになり、現在のウォシュレット付き暖房便座になる（第Ⅲ世紀24号：平成2年2月）。

浴室は、ガス給湯器1台で台所との兼用がまかなえるようになり、浴室の水栓に温度調節ダイヤルが付いたシャワーとなっている（14号：昭和63年6月）。

高齢化の進展を受けて35号（平成3年12月）で、集合住宅でのコミュニティサービスの立ち上げが紹介されている。調理、掃除、通院付き添い等で

あり、2000円の年会費を支払って会員になり、1時間700円でサービスを提供したり利用したりする。運営費用は年会費と自治会からの年15万円の援助金でまかなわれている。

37号（平成4年4月）には自治体をはじめた高齢者向け住宅改修の助成金が紹介されている。玄関に手すりを付けたり、風呂場の段差を解消したりした事例が掲載されており、当該自治体に住む読者からも住宅改修の助成金を受けて浴槽を改修した話が投稿されている（38号：平成4年6月）。

68号（平成9年6月）では、レンタルのベッド、ポータブルトイレ、歩行器を揃え、有償ボランティアのヘルパー、食事の宅配、訪問看護を利用しながら在宅介護を続けている話が紹介されている。41号（平成4年12月）には、定年後の住まいとして、ホームエレベーター付きの新築住宅が紹介されている。日本は平成6年に高齢人口比率が14%を超えて高齢社会となっている。介護保険が導入される2年前に「とりのこされた老夫婦は正真正銘の老老介護になります。する方もされる方も共だおれになる介護地獄が生まれました」、「介護を社会全体で支える新しい社会保険制度、公的介護保険制度を、つぎの世紀から発足させようとしています」と紹介されている（76号：平成10年10月）。介護保険導入後には、介護保険が利用できる住宅改修、福祉用具が説明されている（89号：平成12年12月）。

子どもに関しては、第Ⅱ世紀の延長保育や学童保育に続いて、宿泊付の保育が紹介されている。夜10時までの延長保育が全国37か所で補助を受けて実施されており、その一部の保育所が独自に翌日までの保育を行っている。「公立保育所ではやれないから私たちがやる」として「1人につき2万3000円」で実施している保育所が掲載されている（40号：平成4年10月）。

太陽光発電は、これまでの太陽光温水器（第Ⅰ世紀79号：昭和40年5月、第Ⅱ世紀65号：昭和55年4月、80号：昭和57年10月）から太陽光パネルの利用となる。第Ⅲ世紀32号（平成3年6月）で太陽光パネルの説明がされ、35号（平成3年12月）で手作りで太陽光パネルを取り付けた住宅での体験談が

紹介されている。この頃、読者からは、酸性雨（22号：平成元年10月）、レジ袋の有料化（37号：平成4年4月）、冷蔵庫のフロン規制（57号：平成7年8月）の話が投稿されている。

他方で自動車について排気ガス中の発ガン物質が指摘され、アイドリングストップやハイブリッドカーが紹介されている（76号：平成10年10月）。82号（平成11年10月）では環境税が取り上げられ、自動車の燃費効率によって税金を変更することが提案されている。

自転車は電動自転車が登場し、読者から体験談が投稿されている（60号：平成8年2月、83号：平成12年12月）。同時に、自転車通行のマナーの悪さ（67号：平成9年4月）、子どもを乗せる際の安全対策（96号：平成14年2月）が掲載されている。

住宅の危険性について従来の火事（第Ⅱ世紀58号：昭和54年2月、第Ⅲ世紀54号：平成7年2月等）や地震（第Ⅱ世紀68号：昭和55年9月、第Ⅲ世紀55号：平成7年4月等）に加えて、67号（平成9年4月）でシックハウスが取り上げられている。ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン等による化学物質過敏症が説明され、木材や塗料の工夫、換気等がすすめられている。合わせて、家電から出る電磁波（64号：平成8年10月、65号：平成8年12月）、24時間風呂を実現する風呂温水浄化装置でのレジオネラ菌（67号：平成9年4月、80号：平成11年6月）等にも焦点があたっている。74号（平成10年6月）では在来工法の住宅の耐震補強が取り上げられ、2階の床に構造用合板を敷き詰め、1階は窓を一部狭くして柱や壁をつくった例が写真入りで掲載されている。

97号（平成14年4月）では、新たなコーポラティブハウスとして借地の上に集合住宅を建て、30年後に地主に買いとられ家賃を払い続ける定置借地型、加えて建物の構造（スケルトン）の枠組みの中で内装や間取りを変えることができるスケルトン型の住宅が紹介されている。4階建て11戸からなり、様々な間取りが写真付きで掲載されている。

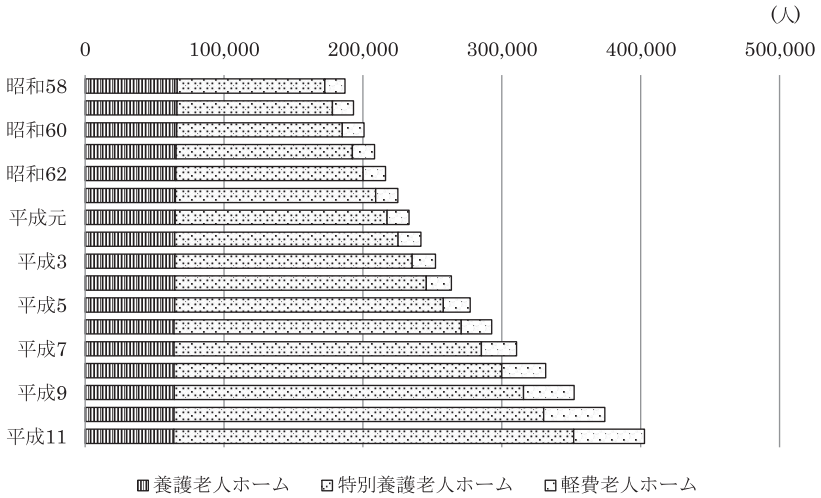


図10 高齢者施設入所者数 —厚生労働省「福祉行政報告例」より筆者作成

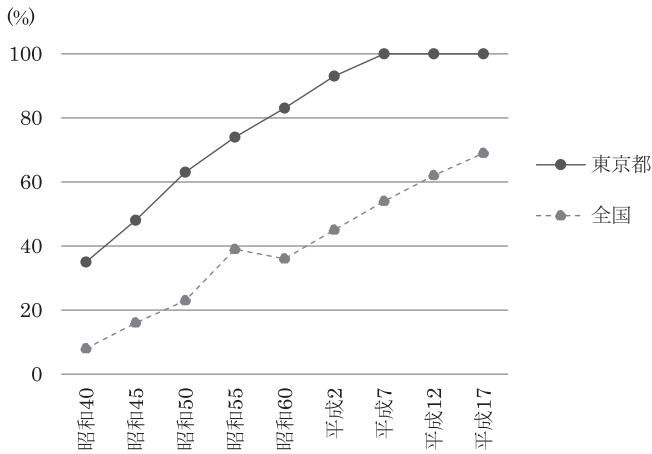


図11 下水道の普及率 —日本下水道協会資料より筆者作成

## 5. まとめ

昭和20年代前半から昭和40年代前半は木造一戸建が中心であり、台所、浴室、トイレが備わり、設備が整っていく過程にあたる。土間の竈から板間の食堂室や居間兼用の台所になり、ステンレスの流し、ガス湯沸器、ガスコンロが入っていく。浴室付きの住宅があたり前になり、和式トイレから洋式トイレが多くなり、一部で水洗トイレが登場する。

同時に、子育てに関して、公立保育園の不足を補うために親たちが共同保育所を立ち上げる話が紹介されている。

昭和40年代後半から昭和60年代前半は、地価や物価が高騰した時期にあたり、アパートやマンションの狭さ、戸建住宅の住宅ローン等の話が紹介されている。アパートやマンションは広く普及し、昭和50年代後半以降には初期に建設されたところで補修や修繕が必要になり、住民同意や積立金等の話にまで発展している。戸建住宅はプレハブ住宅、2×4住宅が登場し、共同設計を行うコーポラティブハウスが建設されている。

合わせてクーラーが登場し、自動温度調節、お休みタイマー等が付属したものとなっていく。ガス湯沸器は一台で台所と浴室をまかなえるものになり、トイレは暖房便座が登場する。

昭和60年代前半から平成10年代は、高齢化の進展を受けて高齢者サービス、住宅改修、コミュニティサービスが紹介される。下水道が徐々に普及し、太陽光パネルが登場する。環境問題への関心が高まり、読者からは酸性雨、レジ袋の有料化、冷蔵庫のフロン規制の投稿がされている。シックハウスや24時間風呂を実現する風呂温水浄化装置でのレジオネラ菌にも焦点があたっている。

自動車はアイドリングストップやハイブリッドカーが取り上げられ、同時に、自転車通行のルールや子どもを乗せる際の安全対策についての掲載もされている。各種機器及び設備はほぼ出そろい、環境問題や安全対策に焦点をあてた更新がされている。

文献

- 1) 大橋美幸:「暮らしの手帖」にみる昭和20年代から平成10年代前半までの日用品と生活意識の変化、函館大学論究46、pp.1-62、2015年
- 2) 梅原清子:『暮らしの手帖』にみる経済大国化の住生活、和歌山大学教育学部紀要 教育科学54、pp.183-193、2004年

表1 第I世紀に紹介された間取り・家具等

商品種類名等は「暮らしの手帖」に掲載されたものから現在の名称に合わせて一部修正している。

号数	間取り	台所	家具・建具	その他	出版年月
1号					昭和23年 9月
2号			戸・窓、炉端 (手作り)		昭和24年 1月
3号	1LDK平屋(和式トイレ、浴室あり)		本棚(手作り)、 ソファベッド	花壇	昭和24年 4月
4号					昭和24年 7月
5号			ふすま、ドアの鍵、 インターホン		昭和24年 10月
6号		棚・吊り棚 (手作り)	イス、ふすまの貼 り替え、屏風		昭和24年 12月
7号	2K平屋(和式トイレ、 浴室なし)			花壇	昭和25年 4月
8号	3DK2階建て(和式ト イレ、浴室あり)、4K (和式トイレ、浴室あ り)		吊り棚(手作り)	通風孔(手 作り)、花壇	昭和25年 7月
9号	2K平屋(洋式トイレ、 浴室なし)		押入		昭和25年 10月
10号	2DK中2階(和式ト イレ、浴室あり)		和机(手作り)、掘 りごたつ、屏風	パチカ、暖 炉、石炭ス トープ、戸 袋	昭和25年 12月
11号			観葉植物用棚(手 作り)、ドアチェ ーン、ふすま、棚		昭和26年 1月
12号			タンス、イスと机 (手作り)		昭和26年 6月
13号	3LDK平屋(和式ト イレ、浴室あり)		イスと机(手作り)	ままごと用 子どもの家 (手作り)	昭和26年 9月



号数	間取り	台所	家具・建具	その他	出版年月
14号			タンス、ストーブ、茶箱、机とイス、組み立て家具、ベッド(手作り)・マット、鏡台、板間と畳	床板	昭和26年 12月
15号			ドアの取っ手	花壇	昭和27年 3月
16号				庭の飛び石(手作り)、ブランド(手作り)	昭和27年 6月
17号	1K平屋(和式トイレ、浴室なし)	海外台所	机(手作り)、机(手作り)、海外家具		昭和27年 9月
18号	1DK平屋(和式トイレ、浴室なし)、1DK平屋(和式トイレ、浴室なし)、1K平屋(和式トイレ、シャワー、台所土間)、1LDK平屋(和式トイレ、浴室あり、ベチカ付き)、2DK平屋(和式トイレ、浴室あり、囲炉裏付き)、1LDK平屋(和式トイレ、浴室あり)、3K平屋(和式トイレ、浴室あり)、4DK平屋(和式トイレ、浴室あり)、2LDK中2階(和式トイレ、浴室あり)		フック付の板(手作り)、イス(手作り)、井桁、屏風	ヒューズ	昭和27年 12月
19号	5K平屋(土間・小屋付き、和式トイレ、浴室あり)		棚	伝統家屋、テラス(手作り)	昭和28年 3月
20号	LDK平屋(和式トイレ、浴室なし、囲炉裏付き)		机(手作り)	セメント	昭和28年 6月
21号	2DK平屋(和式トイレ、浴室あり、土間・女中室付き)		棚(手作り)、衣装箱(手作り)	ペンキ	昭和28年 9月

号数	間取り	台所	家具・建具	その他	出版年月
22号	3DK平屋 (和式トイレ、浴室あり)		机 (手作り)、2段ベッド (手作り)、ベビーサークル (手作り)、障子貼り替え、ストーブ、オンドル	伝統家屋	昭和28年12月
23号	6LDK 2階建て (吹き抜け、応接室、囲炉裏付き)		戸棚、雨戸、階段、障子、押入れ、机	芝生、テラス	昭和29年3月
24号	6DK 2階建て (和式トイレ、浴室あり)		戸棚 (手作り)、2段ベッド (手作り)、机 (手作り)	伝統家屋	昭和29年6月
25号	3K 2階建て (和式トイレ、浴室あり)	流しの配置		伝統家屋壁 (修理)	昭和29年9月
26号		流しの配置、据え付け戸棚	タンス、戸棚	伝統家屋	昭和29年12月
27号	4K 2階建て (和式トイレ、浴室あり)	流し		伝統家屋	昭和29年12月
28号	2K集合住宅 (和式トイレ、浴室なし)		机 (手作り)	伝統家屋、集合住宅	昭和30年2月
29号	3LDK平屋 (和式トイレ、浴室あり)	据え付け棚、食器棚			昭和30年5月
30号		据え付け棚、食器棚	机 (手作り)	伝統家屋	昭和30年7月
31号	4K平屋 (和式トイレ、浴室あり)	棚 (手作り)			昭和30年9月
32号			鏡台、こたつ、ストーブ、ベチカ、浴槽	伝統家屋	昭和30年12月
33号	4K平屋 (和式トイレ、浴室あり、土間付き)		机 (手作り)、棚 (手作り)、オンドル		昭和31年2月
34号		流し等の配置			昭和31年5月
35号		換気			昭和31年7月

号数	間取り	台所	家具・建具	その他	出版年月
36号		流し、棚、水回り、ガスコンロ、水栓	フック付の板（手作り）、照明	伝統家屋	昭和31年9月
37号					昭和31年12月
38号		広さ、流し等の配置		伝統家屋	昭和32年2月
39号	3K平屋（納戸・中2階の倉庫あり、和式トイレ、浴室あり）	広さ、流し等の配置			昭和32年5月
40号	4LDK2階建て（和式トイレ、浴室あり）	広さ、流し等の配置			昭和32年7月
41号		広さ、流し等の配置			昭和32年9月
42号		ガスコンロ	イス（手作り）		昭和32年12月
43号					昭和33年2月
44号			イス	伝統家屋	昭和33年5月
45号		台所改修	網戸（修理）	花壇、家の寸法	昭和33年7月
46号		台所改修	棚（手作り）	ペンキ	昭和33年9月
47号	3K平屋（和式トイレ、浴室あり）		障子紙、組み立て家具		昭和33年12月
48号		台所改修	棚（手作り）	伝統家屋、タイル	昭和34年2月
49号				蝶番	昭和34年5月
50号	3LDK平屋（和式トイレ、浴室あり）	換気扇	換気、トイレの手洗い		昭和34年7月
51号	1LDK平屋（和式トイレ、浴室あり）		照明、殺菌灯	ハンダづけ、騒音	昭和34年9月

号数	間取り	台所	家具・建具	その他	出版年月
52号	7K2階建て(和式トイレ2つ、浴室あり、女中室2室、ガレージあり)、4K2階建て(和式トイレ2つ、浴室あり)	ガスコンロ		材木	昭和34年 12月
53号	4LDK2階建て(洋式トイレ2つ、浴室あり)	台所改修	チャイルドガード	窓	昭和35年 2月
54号	1LDK平屋(和式トイレ、浴室あり)、1LDK平屋(和式トイレ、シャワーのみ)	電気・ガス 魚焼き器	雨戸、ガラス	材木	昭和35年 5月
55号	3K2階建て(和式トイレ、浴室あり)、4LDK平屋(和式トイレ、浴室あり)		コンセント	屋根、プロック	昭和35年 7月
56号	3DK平屋(和式トイレ、浴室あり)、3LDK平屋(和式トイレ、浴室あり)、3LDK平屋(和式トイレ、浴室あり)、8K平屋(和式トイレ1、洋式トイレ1、浴室あり)		ふすま	壁、漆喰	昭和35年 9月
57号			ストーブ、レコード棚(手作り)	瓦、電動のこぎり、電動ドリル、構造・工法	昭和35年 12月
58号				屋根、寝室	昭和36年 2月
59号			戸棚(手作り)	居間、床	昭和36年 5月
60号			換気	床、自動車	昭和36年 7月
61号				海外住宅、ペンキ	昭和36年 9月
62号			水洗トイレ	浴室、井戸、天井	昭和36年 12月
63号		ガス湯沸器	棚(手作り)	家の各種寸法、階段	昭和37年 2月

号数	間取り	台所	家具・建具	その他	出版年月
64号	3LDK平屋 (洋式トイレ、浴室あり、納戸付き)			引越の方法、花壇	昭和37年 5月
65号			雨戸 (手作り)、カーテンレール		昭和37年 7月
66号	2K平屋 (和式トイレ、浴室あり)、3K平屋 (和式トイレ、浴室あり)、3K平屋 (和式トイレ、浴室あり)、3K平屋 (和式トイレ、浴室あり)	石油コンロ	アイロン台	釘	昭和37年 9月
67号			石油ストーブ	大工道具	昭和37年 12月
68号			棚 (手作り)		昭和38年 2月
69号		流し		保育園	昭和38年 5月
70号	3K2階建て (洋式トイレ、浴室あり、1階ガレージ付き)	流し	タンス (手作り)、本棚 (手作り)、アイロン台、扇風機	スプレー塗料	昭和38年 7月
71号			家具の配置		昭和38年 9月
72号	6DK2階建て (洋式トイレ、浴室あり)		こたつ、ストーブ		昭和38年 12月

号数	間取り	台所	家具・建具	その他	出版年月
73号	1LDK平屋(洋式トイレ、浴室あり)、2LDK2階建て(洋式トイレ、浴室あり、1階ガレージ付き)、3LDK平屋(和式トイレ、浴室あり)、2LDK平屋(和式トイレ、浴室あり)、4LDK2階建て(洋式トイレ2つ、浴室あり)、3LDK平屋(和式トイレ、浴室あり)、3LDK2階建て(和式トイレ、浴室あり)、5DK平屋(洋式トイレ、浴室あり)、2K平屋(洋式トイレ、浴室あり)、1DK2階建て(和式トイレ、浴室あり)、4DK平屋(洋式トイレ、浴室あり)、1DK平屋(洋式トイレ、浴室あり)		机		昭和39年 2月
74号		ガスコンロ		自動車	昭和39年 5月
75号			アイロン台		昭和39年 7月
76号			棚(手作り)、イス	押入	昭和39年 9月
77号				バスを利用した災害仮設住宅	昭和39年 12月
78号			ふすま		昭和40年 2月
79号				太陽熱温水器	昭和40年 5月
80号		流しの配置			昭和40年 7月
81号		流しの配置		保育所	昭和40年 9月

号数	間取り	台所	家具・建具	その他	出版年月
82号			障子紙		昭和40年 12月
83号		流しの配置	机（手作り）、ガス風呂釜		昭和41年 2月
84号				ペンキ	昭和41年 5月
85号			パイプ家具（手作り）		昭和41年 7月
86号	2K平屋（和式トイレ、浴室あり）、4K2階建て（洋式トイレ2つ、浴室あり）、4DK平屋（洋式トイレ、浴室あり）、3LDK2階建て（洋式トイレ2つ、浴室あり）、4K平屋（洋式トイレ、浴室あり、納戸付き）、4DK2階建て（和式トイレ、浴室あり）、4K平屋（洋式トイレ、浴室あり、納戸付き）、3LDK2階建て（洋式トイレ、浴室あり、1階ガレージ付き）、3DK平屋（洋式トイレ、浴室あり）、4K2階建て（洋式トイレ、浴室あり、納戸付き）、3DK平屋（洋式トイレ、浴室あり）、4DK2階建て（洋式トイレ、浴室あり）、3K平屋（洋式トイレ、浴室あり）		大型ステレオ器具		昭和41年 9月
87号				家庭用電動工具	昭和41年 12月
88号			簡易シャワー、ワゴン（手作り）		昭和42年 2月
89号					昭和42年 5月

号数	間取り	台所	家具・建具	その他	出版年月
90号					昭和42年 7月
91号			インテリアの色	日曜大工の 手順	昭和42年 9月
92号	3DK2階建て(洋式 トイレ、浴室あり、中 2階あり)	換気扇	じゅうたん		昭和42年 12月
93号		ガス湯沸器		大工道具	昭和43年 2月
94号			ドアの鍵		昭和43年 4月
95号			クーラー	釘の打ち方	昭和43年 6月
96号					昭和43年 8月
97号				ペンキ	昭和43年 10月
98号			石油ストーブ、温 熱ヒーター		昭和43年 12月
99号			クーラー		昭和44年 2月
100号			和室・洋室		昭和44年 4月



## 資料1 第I世紀の投稿欄からみる生活意識

### 一部抜粋

#### 【ガス事故・火事】

「毎年冬になるときまって『ガス中毒死』のことが新聞に出ます（中略）。人体に危険を及ぼすくらいにガスがたまったら、目覚まし時計のように、大きな音で危険信号を出す、こんな機械が考えられないのでしょうか」（39号：昭和32年5月）

「タテツケがよくなったおかげで、我家も一酸化炭素中毒が心配になりました。寒暖計のように目盛りですぐ読める空気汚染度計といったものがあれば、安心してストーブがたけると思います」（99号：昭和44年2月）

「長崎県ではこの半年の間に、灯油とガソリンを間違えて売ったため、石油コンロに使用した家の家事が2件ありました。ガスにわざとニオイがつけてあるように、灯油にはそれとわかるような色をつけて販売するように法制化されたら、このような事故は、未然に防げると思います」（69号：昭和38年5月）

「家庭用消火器に、使用有効期間の日付をぜひ入れてください」（75号：昭和39年7月）

「6月の末と10月に、わが家のすぐ近くから出火、それぞれ10数世帯と5世帯ほどが焼け出されたのを目の前にしてずいぶんとこわい思いをしました。わが家は、2度とも危険範囲のなかにあったので、1度目は荷物を運び出し、2度目は玄関先まで運び出しました（中略）。都会とちがって消防の活動も思うようにはゆかず、木造の家ばかりでしたので、風がなかったのにアツという間の火のまわりようでした」（68号：昭和38年2月）

#### 【住宅】

「私宅は7月に現在の家を2/3ほど大改築致しました（中略）。子供部屋、食堂の壁を土にしたことは大きな失敗でした。全部洋式で大壁ですので、玄関に洋服掛けの金具も取り付けられず、雨でぬれたレインコートなども吊るすことができず、霰のたれるまま奥へ持ってくる不愉快さには、ほとほといやになります」（72号：昭和38年12月）

#### 【戸】

「普通のすりガラスのように見えて、反対側からだけ、向うが透けて見えるガラスがあったら、ドアをあける前に、訪問客がどんな人か、相手に気づかれずにのぞく

事が出来て、どんなによい事でしょう」(40号：昭和32年7月)

「雨の日に雨戸をよく閉めますが、真昼間から夜みたいな室内は、うっとうしいものです(中略)。なにか半透明なプラスチックで雨戸も出来ないのでしょうか」(80号：昭和40年7月)

#### 【壁紙】

「『カベ紙のうらは切手のようにノリをひいてあって、水をつけた障子ばけで、すっとぬらしてすぐはれるようになっている』壁紙が欲しいと思います。ふつうのは、ノリをべたべたつけるうちに、片方からまるまって来たり、中々思うようにならないものです」(36号：昭和31年9月)

#### 【塗料】

「蛍光塗料をマジックインキみたいに手軽に使えると、とても便利だと思います」(55号：昭和35年7月)

「ネズミの嫌がる塗料はできませんか。ネズミが家中をあばれまわり、柱や家具をかじられて困っています」(56号：昭和35年9月)

「専門家がやっているような拭きつけの塗装が簡単に出来たら、と思います。エアゾール何々、という缶入りの防虫噴霧器のように、塗料もこれを応用して、簡単に拭きつけられるようになったらありがたいと思います」(56号：昭和35年9月)

#### 【家具】

「タンスにかけけるユタンは、昔ながらの唐草もようがほとんど。あとは無地やローケツ染めみたいなのですが、どうも感覚が和服的で、アパートなどにそぐいません。洋服地のや、無地でも中間色のものとか、新しい感じのものを作ってください」(58号：昭和36年2月)

「家具のきずの絶え間がありません。そこで思うのですが、きずの上に塗って、あとちょこっとこすれば、ぬりのはげたところがそれほど目立たなくなるという、手軽なクレヨンのような補修剤はないものでしょうか」(65号：昭和37年7月)

「カヤは穴があくと困ります。補修布として、カヤの端布を30センチ平方くらいつけて売っていただくと、ずいぶん助かると思います」(75号：昭和39年7月)

「アイロン台が配達されました(中略)。アイロンかけが、こんなにラクでたのしいものかと、はじめて知りました(中略)。洋間にだしっぱなしにしておくこともありますが、少しも場違いな感じがせず、ときには椅子をひきよせて、台の上で手

紙を書いたり、新聞を読んだりしています」(77号：昭和39年12月)

「最近の学童用の勉強イスは、回転したり、背もぐっともたれると後に寝るようになっていますが、勉強のときにグルグルと落ち着かず、またイスの上に立ったとき、まわるのでこどもが落ちたりします。四ツ脚のついた安定した型で、背も垂直な昔の型のようなのを売って下さい」(90号：昭和42年7月)

「ふとん用のマットレスは、半間の押入には幅がひろくてしまえず困ります。ふとんは少しぐらい幅があっても、入ってしましますが、マットレスは入りにくいものです。少し幅のせまい、押入れに入るものを作って下さい」(94号：昭和43年4月)

### 【暖房】

「いくら電気やガスの時代になってもどうも、あの練炭だけはすてがたいような気がします。一度つけると、一日もつから、お湯をかけておいたり、ごとごと煮たりするのに、ちょっとあれに代わりものはないようです」(48号：昭和34年2月)

「石油ストーブを使いだしました。においはしませんが、私は人一倍敏感らしく、燃えているということだけで頭が痛くなります」(63号：昭和37年2月)

「やたら目まぐるしくデザインばかりいじりまわして、これこそ最新型よと息もつかせぬ日本の企業、ふりまわされまいぞとがんばっても、オテンテンではないぞと横をむいても、部品ひとつでも製造中止とあれば、仕方なくふりまわされる形となる私ども消費者、ほんとにはずかしいと思います」(73号：昭和39年2月)

「テーブルには四角あり丸ありですが、電気コタツはなぜ四角ばかりなのでしょう。丸いのがあれば座る場所をゆうずうできます」(93号：昭和43年2月)

「家はセントラルヒーティングをしているのですが、いまさかんに宣伝されているほど、よいものではないと断言します(中略)。給湯用の蛇口がありますが、お湯を出すためにはすごく時間がかかり、しかもタンクからくるのでくさい。また給湯用の方を使うと、それだけ暖房能力がよわまり、なるべく使わないでくれ、と業者がいう始末。なお、家では夏は冷房に切換えるようになっていますが、その切換えに切換えてもらう費用が、なんと4000円、春と秋に2時間ほど操作して、4000円ずつとられます。しかも、音がうるさいので、家は冷房は夜の9時にはとめて、寝室だけ別にルームクーラーを取りつけました。なんと不経済なことと、我ながらあきられています。以上のような理由で石油によるセントラルヒーティングはおすすめていたしかねます」(99号：昭和44年2月)

## 【湿気】

「押入れの中が湿けてしめっぽく、カビが生えたり、湿気くさくなったりして困っています。よい防湿剤のようなものがあつたらと思います」(79号：昭和40年5月)  
「しまつてあつた洋服を出して、いざ着ようとすると、たいてい悩まされるのが、ナフタリンのあのきついいいです。無臭か、もっと素直なおいのナフタリンができないものでしょうか」(75号：昭和39年7月)

## 【照明】

「主人などもう3年も使っているのに、いまだに浴室につけるつもりがダイニングにつき、ダイニングにつけるつもりがキッチンについてしまう」(83号：昭和41年2月)  
「メーカーは〈明視スタンド〉という名をつけて勉強用という、大てい25ワットをすすめておりますが、2人の子供が近視になつたのも、夜おそくまで15ワットで勉強していたためかと残念でなりませんでした」(84号：昭和41年5月)

## 【水道】

「水道の水のくすりくさいニオイはお茶やお吸いものときには困りものです。大げさな口過装置を蛇口につけるのも、流しがせまくなって使いにくいし、第一、野菜なんか洗う水は、わざわざこすこともないのです。ちょっとふりこめば、ニオイの消えてしまうような、粉末か錠剤があれば、とても助かります」(74号：昭和39年5月)

## 【トイレ】

「お手洗いの電灯は、ついつい消すのを忘れがちです。ドアを開けて入つたら灯がつき、用をすませて出てドアを閉めたら、ひとりでに灯が決める簡単な点滅器が欲しいと思います」(78号：昭和40年2月)  
「消し忘れても5分ほどしたら自動的に消えるスイッチがあつたらと思います」(78号：昭和40年2月)

## 【浴室】

「公衆風呂ではこの頃、お湯を浄化する装置があるそうですが、家庭の風呂用に小型の浄化器のようなものがないのでしょうか」(70号：昭和38年7月)  
「銭湯にシャワーをすけたらどうでしょうか。それも真上からのではなく、横から

吹き出るものの方が、仕上げた髪をぬらさずにすみます」(59号：昭和36年5月)

「低いお風呂の水を、高い洗たく機の方に移せるような仕かけのあるホースが出来たらと思います」(40号：昭和32年7月)

「ガス風呂に、ガス釜のように、時間に合わせておけば、ガスの火が消えるタイムスイッチの装置をつけられないでしょうか」(77号：昭和39年12月)

「ホテルなどで、西洋風呂はつるつるすべるので、安心して入れません(中略)。西洋風呂は、すべらない材質のものを考えてください。それに、つかまる手すりも、考えてください」(75号：昭和39年7月)

「腹ばいになり、せまいところに手をつっこんで、バーナーをガタガタと引張りだしました。この家に引っ越してきて2年半、一度も掃除をした事がありません。ザラザラとサビがこぼれ、古新聞の上のせたバーナーにはかきがらのようなサビがこびりついて、穴もつまっているのや、小さくなったのや、全く『ウワー』という他ありません。どうやら掃除をすませ、お風呂に水を張り早速火をつけました。時間を見ながら…。一時間10分で充分にわきました」(84号：昭和41年5月)

#### 【台所】

「ステンレスの流し台を購入いたしました(中略)。家中の者、6人総がかりです。私が流し台の前に立って見ると、どうしても高いようで、長男は、これは標準寸法だから、いままでのが低かったのだという」(71号：昭和38年9月)

「台所の流しのすみにおくゴミ入れに5センチくらいの足がついていればいいと思います。洗い桶の水を捨てるたびに、プカプカ浮いて流れ出て困ります」(63号：昭和37年2月)

「建てた時に換気扇をつけなかったので、換気扇換気扇と思いながら夏はまだしも、冬は湯気が煮炊するたびにガス台の上から戸棚の上から下を一間半の間ムラムラと流れ、寒いのに窓を開けなければならない。今年こそ絶対に戸棚の底を切って、ステンレスのフードを作って戸棚の奥から外に煙か湯気をだすか、この頃はガラス窓につける換気扇も出ているからそれにしようか」(83号：昭和41年2月)

#### 【日曜大工】

「薪は長さ50センチ程度ですからそれ以上のものは作れませんが、たとえば、犬小屋、箱類などはほとんど全部薪で作れます。比較的安いベニア板と細長い角棒を使えば、棚から水屋まで作れます」(79号：昭和40年5月)

「日曜大工に、広い場所を貸してくれるところはないでしょうか。できたら電動ノ

コギリなども備えてくれば、アパートや団地住まいの日曜大工には、どんなに便利かと思います」(91号：昭和42年9月)

「いまは小さな補修程度では、大工も左官やさんもなかなか来てくれません。それでつい自分でやらなければならず、こんなとき、暮しの手帖の日曜大工の記事が威力を発揮します」(91号：昭和42年9月)

#### 【自転車】

「三輪車の大きなのを作ってください。年をとると、自転車はならうのが大変ですが、三輪車なら安定がよいからすぐ乗れます。スピードは自転車ぐらいのものでできたら、老人はもとより、私たち自転車に乗れないものも、たのしく散歩や買物ができると思います」(71号：昭和38年9月)

「自転車のペダルの厚味の部分に、前後とも、自動車のライトが当たると反射するような、オレンジや赤の夜光塗料を塗ったらどうでしょうか。これは乗っているときは、絶えず上下に動いているので、夜道を走るとき、自動車の中からとてもよく見えて、効果的だと思います」(93号：昭和43年2月)

#### 【自家用車】

「自分で車を持ってみると、どうしても車の整備技術を知っていると、山の中でエンストしたり、ちょっとした修理でもいちいち整備屋さんに来てもらわなければなりません(中略)、自動車メーカーは、自動車整備の講習会をひらいてほしい」(61号：昭和36年9月)

「登山やハイキングの人たちが、気らくに歩ける道路を作ってください。いまでは、自動車が入れる幅があれば、どこでも車がいってきて、安心して歩けません」(77号：昭和39年12月)

「近頃は車の交通がはげしくて横断歩道をわたるのにもびくびくするほどです。横断歩道でも車が突進してくるのか止まってくれるのか信用できないこのごろです。とくに曲がってくる車があると足がすくんでしまいます」(81号：昭和40年9月)

#### 【子ども関連】

「子供をあずかってもらうということは、やはり勇気のいることでした。それは保育園のプラス面をはっきり認識していなかったからです。自分は働きたい、仕事を続けたい、しかし、子供のかけがいのない時代を、より不満足に過させはしまいか…ととりこし苦勞をしてしまうのです(中略)。こういった施設を、もっと多くの

人が、身近に利用できるようになる日がはやく来てほしいものだと思います」(70号：昭和38年7月)

「小さい子どもをもった母親が、病院へ行くとき、子どもを家でみてもらう人がなかったり、近所であずかってもらう家がないと、子どもも連れていかねばなりません。最近、東京のデパートでは2、3あるようですが、病院でも母親が診察をうける間、あずかってくれる託児所があれば、安心して診察をうけることができます。もちろん、有料でけっこうです」(69号：昭和38年5月)

「遊園地や動物園に貸ベビーカーをおいていただけませんか。家中で遊びにいきたくても、赤ん坊はおいていくわけにいかず、ずっとだっているのも大変で、実現しないのです。本当に必要な人だけが使えるように有料でけっこうです」(71号：昭和38年9月)

「従姉が『私の家の子は外でじょうずに遊ぶ方法を知らないのよ』という。家のすぐ前が国道1号線の交差点で、『恐しくて』子ども一人で外へはよう出さない。だから姉や兄も学校から帰ると家の中ばかりで遊ぶのだそうだ」(84号：昭和41年5月)

### 【引越】

「夫の勤め先の関係で、東京と大阪のあいだをよく転勤になります。そのたびに蛍光灯と電蓄のサイクルで困ってしまいます(中略)。コンセントとコードのあいだに入れば、50サイクルのコンセントから60サイクルの電気がとれる、そんなアダプターがあれば、助かると思います」(60号：昭和36年7月)

「転勤のたびに困るのは、その都市によってガスのカロリーが違うことです。レンジ、卓上コンロ、ストーブ、湯沸器、風呂…と、そのつど買いかえたり、直してもらったりします。ことに都市ガスの町から、プロパンだけの町に引越したときは、直すのがむづかしいので大打撃です。全国のガスのカロリーを統一してください」(92号：昭和42年12月)

「私も引越しはすでに十数回(中略)。当地に引越して二週間あまり、引越しよりも5日もまえにハガキと電話で郵便局に連絡しておいたのに、来るべき書留や送本も来ません。友人が旧住所のポストに何日も置かれているのを見て転送してくれているような次第です。ガス屋さんは、検針だけで、いくら払うといっても、お代や新住所に請求します、と杓子定規なことをいいます。引越しは、するほうだけでなく、お役所や会社も、もう少し面倒をみて下さい」(65号：昭和37年7月)

## 【その他】

「アパート暮らしで、物干し場が少なく、天気の良い日が続くと、センタクものを部屋のなかに干さねばなりません。乾燥だけしてくれる店が近所にあると、助かります。ついでに、そこにはアイロンとアイロン台がおいてあって、自分でかけられれば、なお便利でしょう」(94号：昭和43年4月)

「狭い部屋借りで暮らしていると、荷物の置き場にこまりはてます。夏にむかうと、冬のふとんや、冬服などといった、カサばるものがなくなると、ずい分たすかるのです。こういう荷物を預かってくれる店ができないものでしょうか」(79号：昭和40年5月)



表2 第Ⅱ世紀に紹介された間取り・家具等

商品種類名等は「暮らしの手帖」に掲載されたものから現在の名称に合わせて一部修正している。

号数	間取り	台所	家具・建具	その他	出版年月
1号			棚（手作り）	断熱、窓	昭和44年 7月
2号			ベッド（手作り）、 吊り棚（手作り）	集合住宅、 ニス	昭和44年 9月
3号			机（手作り）、風 呂マット	集合住宅の 大きさ・間 取り等	昭和44年 11月
4号			棚	寝室	昭和45年 2月
5号		ガステーブ ル			昭和45年 4月
6号			家具等の取手	集合住宅	昭和45年 6月
7号				壁、窓	昭和45年 8月
8号		ガスオーブ ン	タンス（手作り）	ペンキ	昭和45年 10月
9号			棚（手作り）、 ふすま		昭和45年 12月
10号			イス（手作り）、暖 房便座	居間	昭和46年 2月
11号			机（手作り）	屋根	昭和46年 4月
12号			棚（手作り）	動線と間取り、 自転車	昭和46年 6月
13号			棚（手作り）	パイプ、玄 関、電動工 具	昭和46年 8月
14号	4DK2階建て（山小 屋風・吹抜あり）		屋外自動照明	電動ドリル、 敷地	昭和46年 10月
15号	8K2階建て（納戸付 き、吹抜あり）	ガスオーブ ン	棚（手作り）	地盤	昭和46年 12月

号数	間取り	台所	家具・建具	その他	出版年月
16号			壁紙	ワックス	昭和47年 2月
17号			タンス、ベッド、 蛍光灯	宅地・地価 電動ドリル	昭和47年 4月
18号			棚（手作り）、ク ーラー		昭和47年 6月
19号	3LDK平屋（プレハブ 住宅）		折り畳みテーブル （手作り）	集合住宅の 広さ	昭和47年 8月
20号			本棚		昭和47年 10月
21号			棚（手作り）、据 え置きガスヒータ ー		昭和47年 12月
22号		ガス湯沸器	セントラルヒーテ ィング		昭和48年 2月
23号		換気扇			昭和48年 4月
24号			棚、イス	接着剤	昭和48年 6月
25号		換気扇			昭和48年 8月
26号			イス（手作り）		昭和48年 10月
27号			電気ごたつ、セン トラルヒーティ ィング、ふすま		昭和48年 12月
28号			机（手作り）		昭和49年 2月
29号			イス、棚（手作り）	地価	昭和49年 4月
30号			じゅうたん	ニス	昭和49年 6月
31号			鏡台（手作り）		昭和49年 8月
32号			イス（手作り）		昭和49年 10月
33号			アルミサッシの鍵		昭和49年 12月

号数	間取り	台所	家具・建具	その他	出版年月
34号			イス	工作道具	昭和50年 2月
35号			水洗トイレ	工作道具	昭和50年 4月
36号			棚（手作り）、ク ーラー	セメント	昭和50年 6月
37号					昭和50年 8月
38号		レンジフー ド		ニス、銭湯	昭和50年 10月
39号			棚（手作り）、風 呂タイマー、つっ ぱり棒		昭和50年 12月
40号			机（手作り）		昭和51年 2月
41号			机（手作り）		昭和51年 4月
42号		食器棚			昭和51年 6月
43号			タンス（手作り）		昭和51年 8月
44号			ソファ（手作り）	自転車	昭和51年 10月
45号			石油ストーブ		昭和51年 12月
46号	6DK2階建て（2× 4工法）			自転車	昭和52年 2月
47号		ガステーブ ル	本棚（手作り）	保育所	昭和52年 4月
48号			ベッド、イス		昭和52年 6月
49号			ブラインド	駐在外国人 の住宅、電 動ドリル	昭和52年 8月
50号					昭和52年 10月
51号			障子紙	海外住宅	昭和52年 12月

号数	間取り	台所	家具・建具	その他	出版年月
52号		電気湯沸器	チャイルドガード		昭和53年 2月
53号				集合住宅 (ガス爆発 事故)、自動 車	昭和53年 4月
54号			シャワー機能付き 風呂釜	自転車	昭和53年 6月
55号			折り畳みベッド、 蛍光灯	ノコギリ	昭和53年 8月
56号				地震	昭和53年 10月
57号			据え置き式石油フ ァンヒーター、ホ ットカーペット	掃除方法	昭和53年 12月
58号		石油ガスコ ンロ		家庭用消火 器	昭和54年 2月
59号				引越方法	昭和54年 4月
60号			すだれ、傘立て、 つっぱり棒、カー テンライナー、ク ーラー		昭和54年 6月
61号		フィルター 付き換気扇	イス	ペンキ、自 転車	昭和54年 8月
62号			戸棚(手作り)	窓	昭和54年 10月
63号		ガステーブ ル	足元灯、カーテン の暖房機能、レン タン		昭和54年 12月
64号		小型ガス湯 沸器	石油ストーブ、扇 風機、卓上スタン ド		昭和55年 2月
65号				太陽熱温水 器	昭和55年 4月
66号			棚(手作り)	人工芝、バ イク	昭和55年 5月

号数	間取り	台所	家具・建具	その他	出版年月
67号	コーポラティブハウス 3LDK14戸・4LDK2 階建7戸、7K3階建 て3戸・7LDK2階建 て1戸、7DK3階建 て2戸、5K2階建て 8戸・4LDK3階建て 1戸・6K(台所2つ・ トイレ2つ・浴室2つ) 3階建て1戸・9DK (台所2つ・トイレ2 つ・浴室2つ)・5K1 戸・5DK1戸			バイク	昭和55年 7月
68号			障子	地震、伝統 住宅	昭和55年 9月
69号			ふすま、石油ファン ヒーター	換気	昭和55年 12月
70号	5DK2階建て(トイレ 2つ)		パネルヒーター		昭和56年 2月
71号			机(手作り)		昭和56年 4月
72号				節水	昭和56年 6月
73号				電動ドリル、 海外住宅	昭和56年 8月
74号			マット、据え置き 式石油ファンヒー ター、収納		昭和56年 10月
75号			石油ファンヒー ター、やぐらコタツ (手作り)		昭和56年 12月
76号					昭和57年 2月
77号					昭和57年 4月
78号			すだれ、子ども用 便座		昭和57年 6月
79号			壁掛け扇風機、す だれ	板材	昭和57年 8月

号数	間取り	台所	家具・建具	その他	出版年月
80号			ほたるスイッチ	太陽熱温水器	昭和57年 10月
81号					昭和57年 12月
82号		魚焼き器	イス		昭和58年 2月
83号	集合住宅4DKの改修		ウォシュレット	保育所	昭和58年 4月
84号					昭和58年 6月
85号					昭和58年 8月
86号		ガステーブル			昭和58年 10月
87号			机(手作り)、井桁(手作り)、イス(手作り)、棚(手作り)、石油ストーブ	自転車	昭和58年 12月
88号			カーペット		昭和59年 2月
89号			イス	ガス漏れ	昭和59年 4月
90号			スクリーンカーテン(手作り)	タイル貼り	昭和59年 6月
91号				集合住宅の管理	昭和59年 8月
92号			組み立て家具		昭和59年 10月
93号					昭和59年 12月
94号			机(手作り)、遮光用カーテン	サビ落とし	昭和60年 2月
95号			ベビーフェンス(手作り)		昭和60年 4月
96号					昭和60年 6月

号数	間取り	台所	家具・建具	その他	出版年月
97号		水栓		近所の騒音 デイサービス	昭和60年 8月
98号			棚（手作り）	ペンキ	昭和60年 10月
99号			障子	換気	昭和60年 12月
100号		ガス湯沸器			昭和61年 2月

## 資料2 第Ⅱ世紀の投稿欄からみる生活意識

## 一部抜粋

## 【住宅の価格】

「市内の3LDKで505万円だという。駅も学校も市場も近い(中略)。分譲が始まる9時には、既に長蛇の列、ひやかしもまじっているとはいえ、やっと手にした整理番号は4ケタに及んでいた。前夜から頑張っていたというヤカラもいたという。『タタミ、ずいぶん小さいですね』『部屋に合わせて、タタミこしらえるんです』だからあっちの部屋とこっちの部屋ではタタミの大きさが違うんです、と係員氏はしたり顔で説明する」(20号：昭和47年10月)

「半年前に分譲マンションを買って、11月の完成を待っている。すでに300万円余りを支払った。もう引き返せない。便所も浴室も狭かった。玄関も物置も、かろうじてあるというほどに狭かった。それでもマンションを買わねばならない。一体誰のせいなのか」(20号：昭和47年10月)

「貯金をはじめた頃には、新築した人の話を聞いたり、広告を見ると、1000万円あれば、かなり余裕の有る庭付きの家が建てられました。それが徐々にせまくなって、例の石油ショックで急激に建築費が高騰し、今や、1000万円ではとても、庭つき住宅は望めなくなりました」(34号：昭和50年2月)

「新築することになったのである。娘が嫁にいけば、あとはジジとババっきり。やがて定収入がなくなる。下宿人でもおくことを考えて2階1間をつけた。住宅金融公庫から借入れて、退職金の残りを加えても足らず、東京の息子に当の娘も貯金をおろした」(9号：昭和45年12月)

「今のマンションに住んで7年になります。最初のうちは前のアパートより部屋がふえたこと、壁紙やじゅうたんや障子が真新しく、きれいだったこと、なにもかも満足でした。7年たって、部屋はどことなくす汚れてくるし、物がふえて狭くなるし、それに子どもが大きくなって、とっ組み合いをするような毎日。そろそろどこか郊外の一戸建に移ろうかと、その種の広告を熱心にみていますが、家がよければ手は届かないし、値段が手頃だと、遠くて不便だったり、見ればみるほど、イライラするばかりです」(84号：昭和58年5月)

「4年前に銀行ローンを使って400万円を借り、家を買った(中略)。返済期間は15年。以後、毎月の月給、および6月と10月の賞与から、返済を続けてきたが、こんど事情があって、その家を売らねばならないことになった(中略)。銀行からの通知をみて驚いた。残りは357万円というのである。175万円も営々辛苦、返してきた



のに、借りた金はたった50万円しか減っていない。あとは利息だ。その書付をみて、ドーッと疲れを感じた」(12号：昭和46年6月)

#### 【プレハブ住宅】

「家を建てようと考えたとき、目の前にたくさんのプレハブ住宅のカタログがありました。私は一生に一度の大きな買い物と、本を読んだりハウジングセンターに行ったり、現に建てている人に話をきいたりしましたが、宣伝にいうほど、必ずしもよいことばかりではありませんでした。プレハブは主要な建築部材を工場で量産するため、ある程度安価であると思っていたのに、木造に比して決して安くなく(中略)、セールスマンはいいことをいうが、建てる者はその営業所の下請のまたその下請で、話が多くので食い違ったり、おおむねの出来上がりまでは早い、各部のものとなると1か月や2か月おくれたりする」(20号：昭和47年10月)

#### 【台所】

「今はやりのコンロ2口に真中にグリルのついた、ガステーブルがほしくて、こちらへ越してプロパンガスに変わったのを機会に新調しました(中略)。グリルはもっぱら魚焼き専用ですが、何となくおいしくないのです。時間もかかりますし、こげめもおいしくない」(48号：昭和52年6月)

#### 【冷暖房】

「暖房・冷房の発達した今日このごろの都会生活は、たしかに便利にはちがいないだろうが、目に見えない何かを失いつつあるようだ。その一つが季節だろう。昔は、どの季節には何を着る、ときまっていた。季節よりほんの一寸早目に、新しい季節の衣服を着ることが、粋だとされていた」(2号：昭和44年9月)

「甲府盆地の夏は暑い。『扇風機がないのはうちだけヨ』で、これも、せまい部屋で首をふるうようになった。夏暑い土地は冬もきびしい。職場勤めをするようになった娘が、残業から帰ってきて『ああ寒い、死にそうだわア』とコタツに足を入れながらいう。『ストーブがないと友達も招べやしないのー』。石油ストーブが、いよいよ部屋をせまくしたのは、それから間もなくであった」(9号：昭和45年12月)

「一昨年のことです。長年の念願になって、新居にクーラーを買いました。暮しの手帖を参考に、三菱の『霧ヶ峰』なるほど冷えます。ところが、全館冷房というわけにはまいりません。暑い日中、ムーンとする外気と、子供の出入りのはげしさに、まず健康には、と疑問をいたき、次にその電気代の高さにおどろき、一夏中、主人と

ケンカ腰のクーラー論議」(37号：昭和50年8月)

「ほとんどの家がクーラーを取り付けている。我が家も、クーラーなしの夏は過ごせそうにもない。大ふんばつしてクーラーを買うことにしたのだが、今年の夏のボーナスの大半をはたいて買うのだから、ぜったいに、使いやすくて、丈夫な製品でなければならない。あれこれとパンフレットを取り寄せて検討したのだが、どのメーカーの製品がよいのか分かるはずもない」(61号：昭和54年8月)

「昨今の石油不足や値上がりでレンタンが見直され、売れゆきの急増ぶりをつたえ聞くたびに、また、レンタンを使ってみようという気になり、スーパーで、レンタン火鉢の値段を見てびっくりしました。4800円もするのです。ごみとして捨ててしまった火鉢が、今更のように惜しまれました」(64号：昭和55年2月)

「みたところFF式もファンヒーターもそっくりおなじで、私たちには区別がよく分かりませんし、売り場の人も『似たようなもの』というので、また考えてしまいました。なにしろ6万円のファンヒーターでも大へんな出費で、大決心だったのに、FF式は安くしてくれても10万円もします」(75号：昭和56年12月)

#### 【換気】

「その日は3才の娘が風邪気味でもあり、寒い日でもありましたので、室を締め切っておりました。いつになくグズついていた娘が、10時頃でしょうか『手が痛い』と訴えました(中略)。娘がおかしい。病院へ連れていかねばと、抱き起そうとするのですが、全く力が入りません。必死でした。ほうようにして受話器を取り119番をまわしましたが、手がしびれて思うように動かないのです(中略)。病院に運ばれて正気をとりもどしました。この時まで、まさか一酸化炭素中毒であったは、思いもよらぬことでした」(88号：昭和59年2月)

#### 【ベッド・机・タンス】

「2段ベッドを入れました。2段ベッドを使って驚いたことを1つお知らせします。11月始めに入れて、5か月目にふとんを出して、マットを1枚入れています。ベッドの床は、なんだか紙のようなものが3枚入っています。その板の上にスポンジ(2センチ位の厚さ)の布張りになっています。それを出して、外の日なたに乾かしましたところ、中の板より水が出ましたから、おどろいて、しぼるように押しますと、たくさんポタポタと出ました。こんなになるものかとおどろいています」(13号：昭和46年8月)

「1昨年、長男が満一才になりました折、そろそろベビーベッドともお別れと、2

段ベッドの一段を買いました。2年後位には、多分、2人目が生まれて、その時、もう一段買って、2段ベッドとして使おうとの計画で、購入の際、念を押して確かめました。『絶対、大丈夫。2年後でもちゃんと、もう一段揃います』との答えて、一流メーカーのものですし、おっしゃるとおり信用して、一段だけ購入いたしました（中略）。注文致しましたところ、もうその製品は、去年の春、製造中止で、在庫もありません。どうしても2段ベッドとして使いたければ、新製品を買うよりほかはないとのこと」（25号：昭和48年8月）

「近所の家具店で、去年の夏、1万2000円の整理だんすを買いました（中略）。ところが1か月もたたない内に、引出しの一つが開かなくなってしまい、やっと中にある品物を取り出して、びっくりしました。なんと底は全部とれてしまっていてそれで中身が、下の段の引出しにつかえて、動かなくなっていたのです。底板は奥の板に、ホッチキスでとめてありました。いくら軽いものでも、ホッチキスでとめただけとは、あんまりです（中略）。先日、近くのスーパーへ行った折り、家具のバーゲンをやっていたので、参考のためにと、その辺に陳列された整理だんすの引出しを抜いて底を見たら、なんと、やっぱりホッチキスとめでした」（25号：昭和48年8月）

「長女の小学校入学に際して、電気時計、湿度計、温度計、カレンダー、鉛筆けずり、本棚付きという、いたれりつくせりの勉強机を買いました。子どもは机が来たときは、ブザー付きの時計や、蛍光灯と豆電球がうれしいのか、パチパチとつけたり消したり、鉛筆けずり器でシャーッと鉛筆をけずったり、おかげで1ダースの鉛筆は、たちまちのうちに、ゴミと消えました。6か月たちました（中略）。なんとスチール製の机にピリピリと電気が伝わっているではありませんか（中略）。さっそく電気屋さんに来てもらい、机の配線をしらべてもらいましたら、絶縁テープを使用しなくてはならない所が、ほんのまねごとの様にしてあるだけのため、裸線になっていて、それが机のスチールにふれていました」（22号：昭和48年2月）

#### 【戸・障子・ブラインド】

「幸いなことに、いまだドロボウに入られたことはありません。主人が小学生の頃、運動会を見に行っている間に、軒並み押し入られたという姑の体験をもとに、一軒家に住んでいるときは、防犯ブザーを取り付けておりました」（59号：昭和54年4月）

「大晦日、紙屋さんをさがしてたずねてみると、鳥の子紙1枚（100円）、下貼りの紙1枚分（18円）とのことで、早速9号片手に、5枚にふすまと主人が奮闘いたし

ますこと7時間、終わりましたら、元旦まであと2、3時間といったところでした」  
(10号：昭和46年2月)

「我が家の大小取り混ぜて4枚の障子に、小麦粉で糊を作り、順々に紙を貼ってゆく。12年ぶりかしら、こんな事するの、ここに引越してきて一番嬉しかったのは、障子の入っている部屋と居間がつづきである事だった。そんなことを思いつつ霧を吹く」(52号：昭和53年2月)

「立川ブランドのシルキーを我家につけた時は、白いブラインドが目にしめるように、部屋の雰囲気を変えたものでした。あれからもう4年、大いに日光を遮り、我ながら、あきれるほどの乱雑な部屋が目かくしに、夏の夕暮れからは、レースのカーテンでまるみえの部屋へ、心ちよい風を適当に送ってくれる大活躍ぶりは、今も感謝しているほどです」(50号：昭和52年10月)

#### 【床】

「よく調べもせず、近くの塗料屋さんがすすめる『リンレイブルー』(油性液状)を450円で買求め、床を磨きにかかったのです。鏡のように、顔までうつるピカピカさに満足したのもひととき、3才になる子供がまず転んだ。『男の子だから強い強い』とかいってなだめたものの、1才になったばかりの女の子はステンコロリンの連続」(18号：昭和47年6月)

#### 【自転車】

「駅前線路わきに、自転車が並びだしたのはいつ頃だったろうか。みるみる内にその数がふえて、8メートルばかりある柵の外はまさに自転車置場となってしまった(中略)。最近、急にふえた団地、住宅の人たちが駅まで自転車に乗ってくるため、これまでであった駅前の自転車預り所だけでは、預かり切れなくなったのかもしれない」(3号：昭和44年11月)

「昨年夏のこと、ボーナスで買物用に自転車を買おうと思い、展示場でいま流行の白い色の自転車に目をつけました。ステキなんです、車が小さいのはなんだか疲れそうですし、荷台も弱々しく、第一、値は高いし、もったいない気になりました」(35号：昭和50年4月)

「ドロップハンドルの自転車に乗ってみたことがあります(中略)。ハンドル操作がおもうに任せません。走行中、ブレーキのレバーから、手が離れることも、顔面と頭部が、体よりも前方に出ていることも、とても不安でした」(55号：昭和53年8月)

「結婚2年半、最初こそ手入れしてきた自転車も、近頃ではとんと汚れもふかず使っていたので、なるほど、相当さびてくたびれていた（中略）。主人は自転車、私はずいぶん乳母車と、何だか競争みたいに磨いた結果、念入りにした自転車はなるほどピカピカして、主人は得意満面」（62号：昭和54年10月）

### 【自家用車】

「私にもく人並み>車がある。買わされたとき既にメーターが5万キロを回っていたし、アクセルをいっぱい踏んでも60キロが覚束ない代物なので国道筋や市街地では他の車に迷惑だし、怖くもあるから機動範囲はタカがしている。でも自転車よりも便利だから、カッコわるいミニカーでも気にはならない（中略）。私は空車でバス停のそばを通る時には、待ち合わせている老人や婦女子が居ると停車して『よければ乗りませんか』と声をかけることにした。初めは何やら善意の押売りをしようですいぶん気が引けた」（6号：昭和45年6月）

「欠陥車が出ましたと発表しながら、時を同じく、テレビや新聞で新車広告を続けるメーカーの無神経ぶりがバカ。これが欠陥食品であつたら、即座に製造中止になるはず」（10号：昭和46年2月）

「朝の通勤時だったが、やたらに自家用車の往来がはげしく、曲りくねった狭い県道など、あと数年で役に立たなくなるのではないかと思われるくらいである。農家に車のない家はないというのは事実のようである」（20号：昭和47年10月）

「先に商店街があるので、人通りも多いのですが、1台の車が通るたびに、人は家々の軒下に身を寄せ、人一人乗せた車が、我がもの顔で通り過ぎるのを待ちます（中略）。もちろん、子供は家の前で遊ぶこともできず、私は、近くのお寺まで遊ばせに連れていきます。ころびそうになる子供をせきたてて、いつも走って渡らなければならない横断歩道。歩道の信号は、後からせきたてる車の警笛と、そうちがいはありません。日本という国は、人間より車の方が大切なのでしょう」（41号：昭和51年4月）

「車の制限速度が40キロから50キロに引き上げられることに対して、53号に書いていましたが私の運転経験から書いていきます。私の運転するほとんどの道が制限速度40キロなのです。だが、40キロで走っている車など、ほとんどありません。制限速度40キロで走っていたら、どんどん、後続車に追い抜かれるし、さもなければ、スピードを出せといわぬばかりに、ぴったしと後ろに車をひつつけられます」（54号：昭和53年6月）

## 【バイク】

「ヤマハの原付免許教室へ足を運び、1回の試験で合格。もらった免許証はタンスの中で眠ること半年間。『自転車に乗れない奥さんでも、バイクは簡単に乗りこなしていますよ』と、バイク屋のおじさんにおだてられ、エンジンもブレーキもよくわからぬままに買いました。畑の畦道でたった一日練習しただけで、翌日から車のビュンビュン走る県道へ。最初は20キロ位で走っていたのに、一年半余り経た今では、40キロ近いスピードを出している事がときどきあります。この一年半、いろいろな事がありました。ガソリン計もオイル計もついていないバイクですから、ガソリン切れはまだ良い方。オイルが無くなったのに気づいた時は、もうエンジンが焼き付いて使用不能。新しいエンジンのために、2万5000円近くがパーツと消えました。冬の間はチョークを引こうが、ペダルを踏もうが、エンジンはなかなかからず、イライラの連続。また夕方5時になれば、外は暗く、ライトは、遠、近距離用の切替ボタンは無く、バイクは危険なだけで無く、構造も不親切だということ、買って乗ってみて、始めて知りました。ヘルメットはしっかりかぶり、十分注意して乗らなくてはと心に誓いました」(67号：昭和55年7月)

## 【集合住宅・市街地での暮らし】

「25才になる主婦、団地に住む。毎日毎日おなじ繰り返しの明け暮れ、朝が明ければ、また2人っ切り、窓から眺めれば見なれきった風景。もうあきあきしている。主人が出勤すれば、のこるのは1才半になる子供と私(中略)。私と同等にお話できる人は無し、子供の外に話し相手がない。今日も誰れ一人、話することもなかった。また明日もと思うと淋しい」(5号：昭和45年4月)

「やむをえぬ事情があって、家財道具いっさいを2か月間だけ、どこかにあずかってもらわねばならなくなった(中略)。しかたなく、倉庫会社に電話したら、見積もりきた。ひとわり見回して、5坪必要だという。あずかり賃は、1坪1か月4500円。ウーンとなった。5坪で2万2500円。2か月で4万5千円ではないか。わが家は15坪のアパート。物がそんなにあるはずがない」(13号：昭和46年8月)

「市街地の公団住宅ではイヌ、ネコなどを飼うのは厳禁である。コンクリートの囲まれた空間で飼ってよいのは小鳥だけである。そこで2羽のカナリアを飼ってみた」(17号：昭和47年4月)

「『それがね、田植えの観光旅行なんだよ。それに同行して、イネ作りの解説をしてくれというんだ。民宿に一泊して、千円の旅費なんだが、結構希望者が多いということだ。昔は、農家が金を出して、田植えの手伝いを頼んだもんだが、今は金を

払って、田植えをしに田舎へ行こうという時代さ』(中略)。自然に帰れということ自身をも商品化してしまう、現代の商業主義というものには、いささか恐れをいだくわけです」(19号：昭和47年8月)

「マンション生活10年余り。そろそろあちこち、老朽化はじめわずらわしいことが多くなる。たとえば、外まわりのペンキ塗りかえ一つにしても、70軒の住民全員合意となると、なかなかまとまらない。なかには、うちは外壁なんか汚れてても気にならないので、うちの回りだけは塗りがえなくてけっこうです等といい出す人もいて、世話人を泣かせる」(68号：昭和55年9月)

### 【省エネ】

「エネルギーのムダ使いは、いろいろな方面から考えても、やめなくてははいけません。我家ではだいぶ前から、次のようなことを実行しています。1 マイカーを持たない、2 外食に箸は持参、3 買物籠、紙袋、ビニール袋など、すべて持参、4 缶ジュースは飲まない、5 贈物は商品券を利用、6 内祝のおかえしはしない」(88号：昭和59年2月)

「東京へ転勤してすぐのことだった。水道料金がなんと1万円何かの間違いじゃないのかと驚いたりあわてたり…。今までの倍近くだ。子供がひとりふえたからだろうか、おむつの洗たくもあるしなどと、あれこれ考えてみてもあとの祭り。そこで近所の人に聞いていると、皆さん、はやり、気をつけているのだ。それからは風呂の残り湯の再利用、洗濯のためすすぎと、それだけでのグリーンと違ってきて」(73号：昭和56年8月)

### 【引越】

「引越しをしました。郵便局に回送依頼を出したのですが、郵便物の7割方はもとのままに配達されて、譲り渡したお宅に迷惑ばかりかけます」(15号：昭和46年12月)

### 【日曜大工等】

「この間の長雨でウチの壁が落ちましてな、左官屋さん呼んだら、万国博へずつと行ってるゆうてダメ、エライ工賃がエエそうで、どこを探しても、てんで受けくけてしまへんよ。とうとうシャないから主人が日曜大工で不器用に板打ち付けて…、万国博終わるまでこのままやなんて、ほんなにイヤになりますワ」(2号：昭和44年9月)



「内助の功を労して、ライティングデスクを手がけ『まあ、この引出し動くのね』の賛辞に気をよくして、電動工具の購入となる。春には、お友達が机の引出しからおやつを出したのを見たばかりに、どうしても自分の机が欲しくなった息子と娘の双児のために、入学を記念してライティングデスク2台の追加となる」(10号：昭和46年2月)

「主人が取りかかりました。会社から帰宅して、毎日、5日間ベニヤを切り、2日間の連休で組み立てを完了、塗装屋へ行き、ニスの色をあれこれと楽しく迷いながら決めて、ニスを二度塗りにして完成いたしました。所定の場所に据え付けて主人も私も大満足。昼間は私が本を読んだり手紙を書いたり、家計簿をつけたりに使い、夜は主人が勉強に使っております」(73号：昭和56年8月)

「『組立家具』を見つけたのです。手はじめに、子どもたちの学習机を処分して、2人一緒に座れる細長い机を作りました(中略)。ボックスドライバーを2本使って、子供たちにも手伝わせたので、組立てはたったの2時間」(93号：昭和59年12月)

「親しくしている友人が発起人になって、そうした不器用な亭主たちをあてにしてもはじまらないからと、62号に出ていた『動く戸棚』を数人で家具職人さんに頼んで、同じものを5つ注文するかわりに、安く交渉しようということで相談、一決した。この夏に、すばらしい古風でがっしりした『古きよきアメリカ調』とでもいいたい戸棚が出現したのである」(68号：昭和55年9月)

#### 【幼稚園・保育園】

「私の幼稚園では、2月3日、節分の日に70名(3才男女30名、4才同40名)を入園させるというのに、1700人ばかりの入園志願者を抽選でフルイ落として、220名にしぼった。『倍率』24なんてえらい競争率」(5号：昭和45年4月)

「私も、取手でただ一つの共同保育所こぶたの家で、7年間保母をしてきました(中略)。取手は、6か月すぎると公立に入所でき、公立の0才児クラスが4月から11月ころまで、定員が満たず空いているため、やっとおすわりしてかわいくなった子供が、途中から次々とぬけていってしまいます。在籍期間が短くて1か月、長くて8か月ほどです。『よかったね、公立に入れて』と、涙をかくして無認可の保母として一人前になってゆく」(48号：昭和52年6月)

#### 【高齢者施設・デイサービス】

「私は特別養護老人ホームにつとめています。お年寄り、ともすれば部屋に閉じこもり勝ちになり、『じっとしている方がラクや』という人が多いのです。なるべ



く体を動かすようにと、音楽やゲームを取り入れて働きかけるのですが、体にハンディを持った人の多いなかでのこととて、なかなかうまくいきません」(97号：昭和60年8月)

「祖母は84才、ボケ始めて7年あまり、老人性痴呆症の、ありとあらゆる症状があらわれた(中略)。老人保育所が全国に出来ることを強く望みます。そして、日中わずかな時間でもあずかってもらって、母に、2、3時間のんびりした自分の時間を持たせてあげたい」(98号：昭和60年10月)

表3 第三世紀に紹介された間取り・家具等

商品種類名等は「暮らしの手帖」に掲載されたものから現在の名称に合わせて一部修正している。

号数	間取り	台所	家具・建具	その他	出版年月
1号		レイアウト	石油ファンヒーター	海外高齢者住宅、ままごと用子ども家(手作り)	昭和61年 3月
2号			棚(手作り)、イス(手作り)、シャワー、エアコン		昭和61年 5月
3号				手すり・段差解消	昭和61年 7月
4号		レイアウト			昭和61年 9月
5号		レンジフード	棚(手作り)		昭和61年 11月
6号			つっぱり棒、正座用イス		昭和62年 1月
7号			机(手作り)		昭和62年 4月
8号					昭和62年 6月
9号	フリープラン集合住宅 1K、集合住宅4K、 集合住宅1LDK				昭和62年 8月
10号			トイレのレイアウト、机(手作り)	ペンキ	昭和62年 10月
11号			照明、石油・ガスファンヒーター		昭和62年 12月
12号			収納		昭和63年 2月
13号				下水道	昭和63年 4月

号数	間取り	台所	家具・建具	その他	出版年月
14号	コーポラティブハウス 4階建て10戸		組み立て式ベッド 上テーブル（手作り）、 床頭台（手作り）、温度調節付 き水栓シャワー		昭和63年 6月
15号			棚（手作り）、足 元灯		昭和63年 8月
16号		浄水器		自転車	昭和63年 10月
17号		レイアウト	電気カーペット、 キャスター		昭和63年 12月
18号			机		平成元年 2月
19号		ガステーブル	シングルレバー水 栓、下駄箱	電動ドリル、 自動車	平成元年 4月
20号			イス（修理）、浴 槽内滑り止めマッ ト		平成元年 6月
21号			机とイス（手作り）	雨水をため ている家	平成元年 8月
22号			チャイルドガード、 卓上スタンド（手 作り）	駐在外国人 の住宅	平成元年 10月
23号				ワックス	平成元年 12月
24号	輸入住宅4DK2階建 て（1Fガレージ、ウ ォークインクローゼッ ト付き）・5LDK2階 建て（1Fガレージ付 き）		ウォシュレット付 き暖房便座		平成2年 2月
25号	集合住宅建て替え3 DK30戸			ノコギリ	平成2年 4月
26号					平成2年 6月
27号				自動車	平成2年 8月
28号		フィルター 付き換気扇	障子		平成2年 10月

号数	間取り	台所	家具・建具	その他	出版年月
29号			イス、障子紙、調光器		平成2年12月
30号			イス	電力	平成3年2月
31号			組み立て式ベッド		平成3年4月
32号			居間のレイアウト	コンセント(事故)、太陽光パネル	平成3年6月
33号	3K2階建て		トイレの配管(修理)、机(手作り)		平成3年8月
34号					平成3年10月
35号				集合住宅の有料サービス、太陽光パネル	平成3年12月
36号	集合住宅の改修		イス、電気こたつ		平成4年2月
37号	住宅改修				平成4年4月
38号		浄水器	ローラー式開閉網戸、シャワー		平成4年6月
39号	集合住宅の改修4K(クローゼット付き)、4LDK、3K(クローゼット付き)		机(手作り)、井桁(手作り)		平成4年8月
40号	7LDK2階建て(吹き抜けあり、納戸付き、地下ガレージ、トイレ2つ)	ガステーブル	じゅうたん	ニス、自動車、保育所	平成4年10月
41号	5DK3階建て(EV・クローゼット付き、サニタールームあり、トイレ3つ)				平成4年12月
42号					平成5年2月
43号			イス、照明器具		平成5年4月

号数	間取り	台所	家具・建具	その他	出版年月
44号			網戸（張り替え）、 遮光カーテン		平成5年 6月
45号			机（手作り）	塀（塗り替え）	平成5年 8月
46号				集合住宅の 花壇	平成5年 10月
47号	集合住宅の建て替え 10階建て660戸		くもらない鏡		平成5年 12月
48号			浴槽の残り湯を移 すポンプ、照明		平成6年 2月
49号					平成6年 4月
50号			机、屋外用シャワ ー		平成6年 6月
51号			棚（手作り）、折 り畳みベッド、ト イレの手すり	地価	平成6年 8月
52号			イス	ペンキ	平成6年 10月
53号			ベッド上テーブル （手作り）、イス、 石油ファンヒーター	浄化槽	平成6年 12月
54号			イス、サッシの鍵 子ども用便座	家庭用消火 器	平成7年 2月
55号			アイロン台	地震、床用 ワックス	平成7年 4月
56号			壁紙		平成7年 6月
57号		レイアウト		自転車、老 人病院	平成7年 8月
58号			アイロン台、ペビ ーベッド（手作り）、 壁（補修）	集合住宅の 中庭	平成7年 10月
59号			イス、電気パネル ヒーター	電動自転車	平成7年 12月

号数	間取り	台所	家具・建具	その他	出版年月
60号			ついたて(手作り)、風呂温水浄化装置、ウォシュレット付き暖房便座		平成8年 2月
61号					平成8年 4月
62号					平成8年 6月
63号	5LDK3階建て(ロフト付き)			子育てサークル	平成8年 8月
64号			つっぱり棒	電磁波、低床バス	平成8年 10月
65号		レイアウト	空気洗浄機、浄水器、棚(手作り)	電磁波	平成8年 12月
66号			床暖房、センサー付き自動照明	車いす、自転車	平成9年 2月
67号		生ごみ処理機	風呂温水浄化装置	シックハウス	平成9年 4月
68号	6K2階建て(吹き抜けあり)		浴槽内滑り止めマット、ベッド、ポータブルトイレ、歩行器	セメント、引越、高齢者サービス	平成9年 6月
69号		浄水器	机、棚		平成9年 8月
70号				電車	平成9年 10月
71号				電動ノコギリ	平成9年 12月
72号				電動ドリル	平成10年 2月
73号	5LDK2階建て(ロフト付き、吹き抜けあり、トイレ2つ、浴室2つ)		シャワー		平成10年 4月
74号				耐震補強、住宅の歴史、屋上緑化、電動ドライバー	平成10年 6月

号数	間取り	台所	家具・建具	その他	出版年月
75号	集合住宅の建て替え7階建て32戸		卓上スタンド		平成10年8月
76号	プレハブ住宅	台所の歴史、浄水器	机、暖冷房器具の歴史	集合住宅の歴史、家庭用非常通報装置、スプレー塗料、地価、保育園、介護保険、特別養護老人ホーム、自動車	平成10年10月
77号	3LDK2階建て(中庭・土間あり)		イス	庭	平成10年12月
78号			センサー式自動照明	庭	平成11年2月
79号					平成11年4月
80号			棚(手作り)、風呂温水浄化装置		平成11年6月
81号				住宅ローン、伝統住宅	平成11年8月
82号			棚(手作り)	自動車	平成11年10月
83号		ガステーブル			平成11年12月
84号	高断熱住宅(ヒートポンプ・太陽光パネル付き)		火鉢	日照権、集合住宅の管理、歩行器	平成12年2月
85号			インターホン、イス	階段	平成12年4月
86号			机、電源スイッチ付き延長コード、電気表示器、照明器具		平成12年6月
87号				住宅の相続	平成12年8月
88号			鍵	欠陥住宅訴訟	平成12年10月

号数	間取り	台所	家具・建具	その他	出版年月
89号	住宅改修			耐震補強、 介護保険サ ービスの住 宅改修・福 祉用具	平成12年 12月
90号			浴室・脱衣所の暖 房		平成13年 2月
91号			カーテン、屋外セ キュリティシステ ム	ニス、カー シェアリン グ	平成13年 4月
92号	4LDK 2階建て（ロフ ト・納戸・クローゼッ ト付き）				平成13年 6月
93号			タンス	節電	平成13年 8月
94号					平成13年 10月
95号	高断熱住宅 4LDK 2 階建て（納戸2つ、ト イレ2つ）		便器、シングルレ バー水栓	掃除方法、 ホルムアル デヒド除去 剤	平成13年 12月
96号				土地の相続、 銭湯、自転 車	平成14年 2月
97号	スケルトン型定置借地 住宅 4階建て11戸		カーペット	庭	平成14年 4月
98号			壁（補修）、井桁 （手作り）	駐在外国人 の住宅	平成14年 6月
99号				ベランダの 庭、カビ	平成14年 8月
100号				掃除方法、 庭	平成14年 10月



### 資料3 第三世紀の投稿欄から見る生活意識

#### 一部抜粋

##### 【水道・下水道】

「なぜピン入りの水でご飯を炊かせようとするのか、その発想が気にさわってしまったのです。確かに水はまずくなっていますけれど、ピン入りの水を炊飯に、ということよりも、水をおいしく、きれいにするキャンペーンとかに、取り組んだ方が会社のイメージがよくなるのにすごい無駄とした思えなかったのです」(28号：平成2年10月)

「今住んでいる山陰の農村、もちろん下水道はありません。何十年たっても可能性はないでしょう(中略)。田舎の海や川はきれいだと安心してられません。どんどん都会化しています。これ以上、海や川を汚さないためにも、合併浄化槽の必要性を感じました」(14号：昭和63年6月)

「この冬、やっと我が家も本下水になることになりました。当然、今までの浄化槽を埋め、下水につながなくてはなりません」(20号：平成元年6月)

「大都会の真ん中をいまなおバキュームカーが走っている。事実、昨年4月現在で、東京23区の下水道普及率は約91%、まだ8万戸がバキュームカーのお世話になっているし、『普及率100パーセント』という区でも、汲み取り式が残っている。下水道が完備しているのになぜ、と思うが、これは受益者負担の原則から、下水の本管から自分の家までは自己負担で工事しなくてはいけないキマリがあるからである」(31号：平成3年4月)

##### 【台所】

「ガステーブルが入りました(中略)。使いはじめて1か月ですが、先日、<セイフル>の恩恵を享受しました。カボチャの煮つけが、ちょっと下が焦げたかな、という程度で助かり、お鍋こすりもまぬがれたのです(中略)。ときどき、鍋のお湯がわかないうちに火が消えてしまい、ピーピー警告音になるのです。説明書を見ると、センサーがちゃんと鍋底についていないと、そうなると書いてあったので、確かめとみると、1ミリほどスキマがあいています」(41号：平成4年12月)

「水道水がまずい、カルキ臭がある、身体によくない、果てはガンになる? などと聞くようになった頃、スーパーでは他のジュース類を圧して、ミネラルウォーターが山と積まれ、5本も、それ以上も買って帰る人が後を断たなかったが、遂に小売りする時代になったかと、少々、複雑な心境で見たものである。今は、少し落ち

着いたかに見えるのも、浄水器が普及したのかな？ 私の旧友家族が長崎から帰省の途中の、名選自然水をみやげに持ってきてくれるのは、主人の水割用や趣味の緑茶用にするので、有難い」(70号：平成9年10月)

#### 【住宅】

「我が日本に居間、寝室の最低基準はない。そして、1つ以上の居室と、共用でも玄関、便所、台所があれば住宅と見なす我が国の現実を見ないまま、平均室数は欧米並みです、などという政治家は、その見識を疑いたくなる。我が家は世田谷区と杉並区の境い目だが、近所のちょっと大きな家でお葬式があると、半年とたたないうちに、小さい建売住宅が5、6軒できてしまうのを、ずいぶん見てきた。分割できるほど広くない家は、軒並み学生専用のアパートか、3階建てに変わっていつている」(19号：平成元年4月)

「たまたま、すぐ隣りに賃貸アパートが建ったので、そこの一戸を借り、改装後はこども達をそちらへ移すことにして、これから年寄り3人が暮らしやすいようにと、思い切って改装に踏み切りました」(40号：平成4年10月)

「昨年12月はじめに新居に引っ越しました(中略)。寒い冬期で、部屋を閉めきり、暖房のためにエアコンをつけっ放しという日が続きました。もちろん換気扇などは回していませんでした。いままで、一度も花粉症などになったことがない私が、3月に入って、花粉症がさわがれだす頃、目と鼻がチカチカしたりかゆくなったりし、泪はでるわ鼻水はでるわと、ティッシュペーパーの箱を手放せない(中略)。これは住まいから出る有毒ガスの影響だとするに考えつきました。そういえば、引っ越した日から、なんとなく石油臭いような感じがしていたのです」(68号：平成9年6月)

「実は私の両親は現在支え合って生活していますが、父名義の土地に、妹夫婦が両親の了解の上、家を建てており、もう一つ上の妹がこれに異を唱えています(略)。親を世話し、看取った人が、親の遺言があれば、遺言通りに相続できるものとこれまで信じていました。でも遺言に納得せず、遺留分を主張すれば認められるとのこと、驚きました」(97号：平成14年4月)

#### 【家具・建具】

「床暖房にすることにしました。工事費が高いのでは、燃料費がかさむのでは…と、取り組むまでは心配でしたが、完成して住みはじめたのが、去年の12月28日。何よりも本当にあたたかくてまさに『しあわせは足元からやってくる』感じですよ。私の

ところは都市ガスが通っていないので、燃料は石油にしました。燃料の消費量は、ストーブの時よりは若干多い感じですが、それでも、洗面所、風呂場の脱衣所、そしてトイレまであたたかいのは、今までは味わえなかったよろこびです」(67号：平成9年4月)

「この頃よく宣伝を見たり聞いたりする、いつでも好きな時に入れる24時間風呂は、便利だなと思っていました。しかし、全然お湯を取り替えなくても、本当にきれいなのだろうか、浄化装置の掃除はどうするのだろうか、軽費はどの位かかるのだろうかなど、知りたい事ばかりでした」(61号：平成8年4月)

### 【電車】

「外国人から見ると『どうして皆黙って耐えているのかわからない』という通勤ラッシュを黙って耐えている当方、考えるとそれなりに『法』があるのに気づいた。まず第一に楽しむこと」(27号：平成2年8月)

「東京では地下鉄の駅が面白い。金魚や熱帯魚の水槽を置いたり、図書館や靴磨きのコーナーを作ったりと工夫をこらし、これまでのく息苦しくて殺風景な構内」というイメージを一掃しようとしている」(30号：平成3年2月)

「お年寄りも安全だし、雨の日の満員バスの気分の悪さも、電車では心配ないし、線路を走るから、交通事故の可能性が少ないなど、電車党の私は、絶対廃止などにはなっってほしくないと願って、微力ながらも、なるべく市電を利用している」(71号：平成9年12月)

### 【自家用車】

「私の居住している旧住宅公団の分譲アパート団地でも、入居当初から用意されていた駐車スペースの不足をめぐって、10年この方、討議と姑息な解決方法の採択が繰り返されてきました。共有財産の緑地を削って駐車スペースをふやすことは簡単ながら、いとも簡単に、車所有者側の主張が大勢を占めてしまうのを、苦々しく見てきました」(28号：平成2年10月)

### 【自転車】

「9年ほど乗り続けたスクーターの買い替えどきに、ホンダの電気自動車が発売になり、年齢のことも考えて、それに乗り替えた。バッテリーの取り外し可能だが、その時点ではヤマハに先行していたし、取扱い店が、充電器はサービスにと事実上の値引きをしてくれたからだ(中略)。毎日の買い物の雑用、週に1回5キロ先の植

物園に出かけるために乗る。ペダルも軽くルンルンと言いたいが、電池切れの不安がいつもつきまとう」(60号：平成8年2月)

「電動自転車に乗り始めて1年余り、向かい風もラクラク、重い缶ビールを後ろにのせても、軽くペダルを踏み、まるで誰かに背中を押されているかのように快適運転です」(83号：平成12年12月)

「地元の補導委員会の面々がそろって来校した。高校生の自転車のマナーが悪いから、厳重に指導してほしいというのだ。翌日、早速、生徒に申し入れの話をした。思っていたとおり、生徒からは注文が出た。わがまちの商店街の自動車通行帯には、朝夕の登下校時には、必ずと言ってよいくらい、宅配などのトラックが止められているというのだ。車道へ出れば、車が来てあぶない。そこで歩道を通らざるを得ない。冬場は、除雪した雪が板飴のように張りついている。自転車が安心しては走る場所がない状況が訴えられた」(67号：平成9年4月)

「我が家では、3歳の子どもを自転車にのせるときには、必ずヘルメットと、肩、腰の拘束ベルト付き後のせ用補助イスを使用しています(中略)。私が補助イスを自転車店で買ったときも、あるのはカゴのようなものばかりで、良くて肩、腰ベルト付き、ヘルメットに至っては、取り寄せるしかありませんでした」(97号：平成14年4月)

### 【日曜大工】

「私もペンキなど塗ったことがないし、田舎のこと、道具や材料が揃うかどうかわかりません(中略)。見事に『わたしにもできました!』」(46号：平成5年10月)

「家を改装するため、業者にきてもらい見積もりをしてもらったところ、かなりの改装費がかかりそうです。網戸の張り替え1枚に付き2500円、6枚で1万5000円と書かれています(中略)。主人の『やってみよう』の一言で、私たちは、近くにある日曜大工の店に行き材料を買い求めてきました。ローラー1本300円、押さえゴム1袋180円、防虫網は1メートルに付き300円でした。網戸1枚張るには約2メートルの網がいる計算で、12メートル買いました(中略)。1枚経験すると要領もわかり、2枚、3枚と進むうちに短時間でできていくのがわかり、面白くさえなって、すっかり自信が付き、あっちこっちと張り替えたところです」(45号：平成5年8月)

「壁紙の量を決めて購入すると、そうそうにとりかかった。棚を移動し、スイッチのプレートははずし、貼っていった。思いのほか簡単にできた。余った壁紙で洗面台の下扉も化粧した。見違えるように明るくなった」(57号：平成7年8月)

### 【高齢者施設・サービス】

「子供たちが大きくなって巣だってしまうと、82歳と75歳の夫婦のは、少々家が広すぎる。いっそ、土地家屋を売って老人ホームへと決心したが、いく先はワンルーム、家財道具の処置に困ってしまった」（4号：昭和61年9月）

「運動機能が低下している人、高齢者にこそ車は生活必需品で元気な人や若者は、自分の手足を十分に使いこなせばよろしいわけです。発想を転換して、1 歩道・グリーンベルト・車道などの問題を含めて道路整備、2 安全・美観を考慮した道路標識の改善、3 スピードとモデルチェンジに勢力を使い果たして、若者をターゲットにしているメーカーの生産姿勢から、高齢者を照準にした安全で低・無公害車の開発・製造など、新しい観点に立って車社会のあり方を模索すれば」（20号：平成元年6月）

「『雪の降らないゲートボール場』です。東京ドームと同じ、エアータント方式でできています。ゲートボールは、お年寄りの生きがい。しかし、雪が積もるとできません。そこで、いつもできるゲートボール場を作ったのです」（22号：平成元年10月）

「祖母の姉の具合が悪く、歩くにも不自由だが、手を貸せるのが祖母だけなので大変だ、と聞いた。どうしたものかと思っていたら、かの江戸川区が車いすを貸してくれた。手伝いにも行かない不良孫娘の私は『お役所』の意外なサービスにおどろいた記憶がある。しかし、江戸川区はまだまだやってくれた。祖母の家はお風呂が離れにあり、浴槽も高かった。そのお風呂を全面的に直してくれるという。母屋からつづきにして、すべらず、入りやすいものに。あつというまに、しかもタダで造りかえてくれたことは、よく聞かされた」（38号：平成4年6月）

### 【環境問題】

「宅配便の便利さを享受し、深夜にコンビニエンス・ストアを利用し、4WDのクルマでドライブを楽しんでいます。しかし、よく考えてみれば、そういった便利さ豊かさの背景には、ディーゼル車が関係しているのです。いつの間にか、日本に降る雨も、酸性度の高い雨とのこと」（22号：平成元年10月）

「いま『30年前の生活にもどりなさい』といっても無理だが、このへんで必要以上の便利さを見直し、エネルギーを、少しは削減する生活に皆が協力しなければ、いい21世紀を迎えることが出来なくなるのではないだろうか」（30号：平成3年2月）

「買物袋をくれない、ほしければ有料（10円）である。価格の安いのは大歓迎だが、衣料品すら包装してくれず、いままで、袋をもらうのが当たり前だった私たちにと

って、その方式は画期的であった。いまから5年ほど前のことである。最初、なんてセコイことを、と思っていたが、今度は他のスーパーで過剰にくれる薄手のポリ袋や買物袋、また、デパートの過剰包装にも拒絶反応を示したのである」(37号：平成4年4月)

「冷蔵庫も最新のものにかえたいと、姉に相談したら、『特定フロンの冷蔵庫のほうが性能がいいそうよ、いまなら、まだ売っているから、いそいで買いかえたら』といわれて、その気になっていました(中略)。フロン規制対応の新しい冷蔵庫でも、機種を選べば、性能は劣らないことを知って、あわてることはない、と安心しました。それと同時に、いま使っている冷蔵庫は、フロン規制後でも修理できることもわかり、私たちがいま買いかえれば、捨てる冷蔵庫の中につままっているフロンがどうなるかも心配になりました」(57号：平成7年8月)

「温暖化を考えると、ノンフロン冷蔵庫が、これからの選択ということがよく分かりました。ノンフロンは、代替フロンより、約1万円高いのですが、売り場で見ると、10万円ちょっとでした」(99号：平成14年8月)

「どんな理由からか川岸をコンクリートで固める工事、アスファルトをはがして、サイクリングロードを作り直す工事が延々とつづいている。以前、みごとな花を咲かせる桜の木が何本かあったのに、いつの間にかそれも引き抜かれ、葉がないから何の木かわからないけれど、支柱で支えられ、きちんと等間かくで木が植えてあった」(56号：平成7年6月)

「原子力や石油燃料にたよらず、太陽や風や地熱などの自然のエネルギーで、使うエネルギーの8割をまかなうというこのローエネルギーハウス。こまかい技術的なことはよくわからなかったのですが、それでも、私たちすべてが、こんなすばらしい家に住めたらと、未来に一すじのあかりが射すおもいがしました。それも、あかりをけし、生活をきりつめるというのではなく、冬は適当にあたたかく夏も快適に、必要なものはつかい、いまの生活水準を保ちながらというのも、私の気にいった点です」(85号：平成12年4月)

#### 【その他】

「こどもが5年生になって、家庭科が時間割にのった(中略)。ところが、教科書に出ていたのは、なんとタライで手洗いをしている図。私の考えが甘すぎるとは思えない。家庭科くらい、もっと暮しそのものにつながった教科であってほしいのです」(8号：昭和62年6月)